



SGホールディングスグループ
CSRレポート
Sustainability Report 2009



ひと、社会、未来を支えて



みんなで止めよう温暖化

「SGホールディングス」チーム・マイナス6%

CSRレポートの冊子タイトルについて

仕事や暮らしに対して大きな役割と責任を果たし、また今後もさらに真摯に取り組まなければならない、物流事業を核としたSGホールディングスグループの日々の活動が「CSR(企業の社会的責任)」であると深く自覚し、本年度より報告書のタイトルを「CSRレポート」としました。

表紙デザインについて

SGホールディングスグループとして、日々の事業活動を通じて産業や社会に欠かせない重要なインフラ、ひいては地球環境の豊かな未来をも担っていく。そうしたCSR活動そのものにつながるグループの姿を表現し、「ひと、社会、未来を支えて」という言葉に託してメッセージしています。

編集方針と報告範囲

■編集方針

1. 多くのステークホルダーにお読みいただけるよう、カラーユニバーサルデザインで編集しています。また、わかりやすい表現を心がけ、簡潔・明瞭に説明しています。
2. 環境省の「環境報告ガイドライン2007」と「サステナビリティ レポートガイドライン2006」(GRI)を参考にしています。
3. 実績データは2008年度のものを集計しています。(活動内容については一部2009年度の内容も含まれます)
4. 取り組みの状況により、年間実績数値で報告できないものは対象期間を明示しています。

■報告対象期間

2008年3月21日～2009年3月20日

■報告対象組織

佐川急便の活動実績を中心に、SGホールディングスグループ企業と財団法人の活動を掲載しています。

■その他情報提供手段

本報告書は、SGホールディングスWebサイトからもダウンロードできます。
(<http://www.sg-hldgs.co.jp/>)

SGホールディングス株式会社 概要

SGホールディングス株式会社は、佐川急便株式会社を中核とするグループの純粋持株会社であり、グループ全体の「経営戦略策定・管理機能」を有し、各事業会社は、「業務執行機能」に特化しています。この経営体制により、日々変化する社会からの要請に対し、意思決定のスピードを高めると同時に、グループの総合力を発揮しています。

■商号	SGホールディングス株式会社 (SG HOLDINGS CO.,LTD.)
■設立日	2006年3月21日
■事業内容	グループ経営戦略策定・管理並びにそれらに付帯する業務
■所在地	京都市南区上鳥羽角田町68番地
■代表者	栗和田 榮一
■資本金	113億8,300万円

目次

2	トップメッセージ
4	巻頭特集 「物流って、暮らしと仕事を支えているんだ！」 ～社会のインフラ、「物流」の現場を職場体験～
7	グループ概要
8	SGホールディングスグループ 事業と社会
10	SGホールディングスグループの理念と指針
12	SGホールディングスグループのCSRの考え方と体制
14	SGホールディングスグループ事業体制と国内事業概要
16	SGホールディングスグループ経営ビジョンと中期経営計画
17	SGホールディングスグループ事業データ
18	SGホールディングスグループ海外拠点
19	安全への取り組み
20	安全特集 全日本トラック協会主催 全国トラックドライバー・コンテスト 日本一の栄冠への“歩み”
23	安全性向上へのスキーム
24	エコ安全ドライブの取り組み
26	車両整備、安全機器の装備による安全への取り組み
28	安全な社会の実現を目指して
31	環境への取り組み
32	環境特集1 お客さまと二人三脚 CO₂削減へひた走るサービス
34	環境特集2 よく学び、よく遊び 健やかな里山へと再生
36	環境活動の考え方／地球温暖化防止への取り組み
39	輸送の効率化による環境対策
42	資源の有効活用
43	循環型社会を目指した取り組み
44	SGホールディングスグループ環境行動
46	自然との共生
47	環境啓発への取り組み
48	環境活動推進の体制づくり
51	社会とのかかわり
52	社会特集 異文化交流、経済発展 異なる文化を知り、相互信頼関係を築く
55	お客さまに向けて、サービスや商品の取り組み
58	お客さまに向けて、品質の向上の取り組み
59	従業員とともに
64	人のつながりと社会の声
66	地域社会とともに「内外の地域支援・協力」「産学官民の連携や協賛活動」
68	「これからも、もっと、ずっと。社会に役立っていきたい」 SGホールディングスグループ社員メッセージ
70	第三者保証報告書(クライメート・セイバース・プログラム)
71	2008年度のあしあと



社会のインフラの一翼を担う 私たちの事業への真摯な取り組みが 最も重要な社会的責任であると考えます

私たちは、お客さまの大切なお荷物を「お客さまの心とともに」お届けすること、そして、安全や環境への取り組みなど、多彩な活動で社会に責任ある企業体を目指しています。この厳しい経済環境の中、SGホールディングスグループ (SgH) の社会的責任 (CSR) はどうあるべきか。代表取締役会長兼社長の栗和田榮一にインタビューしました。



経済停滞の今、CSRをどう考えますか？

経済が停滞している今だからこそ、CSRを改めて考えていかねばならないでしょう。CSRは継続されなければ意味がない。CSRを本業とかけ離れた活動として捉えたら、継続や発展は難しい。SGホールディングスのコア事業である物流は、産業や社会インフラの充実・発展に大きな役割を担っていることから、SGホールディングスグループの本業そのものがCSRであると考えていますし、だからこそ、CSRとしても事業としても私たちの企業活動がいかに経済の活性化や産業インフラ、社会インフラの充実・発展につながるかという視点が大切です。

物流の発展は産業・ビジネスにおけるスピード化・効率化をもたらし、またその進化に貢献しました。私たちは、今後とも環境問題や社会の安全、そして人々が幸せに暮らせる社会の構築にも協力しながら、さらなる産業・ビジネスへの貢献に努めていきたいと考えています。一般消費者の購買スタイルとして大きくクローズアップしてきた通信販売には、物流・運送業界の努力は重要であったと自負していますが、それは経済の停滞やITの普及などの社会変化に対応した通信販売の優位性ととも、迅速・確実に、そして安全・安心にお荷物をお届けする「物流」が消費活性への大きな要因のひとつであったと思います。

社会の発展に寄与するためには、時代の要請に半歩先んじて考えることがとても重要です。経済停滞など

の状況におけるさまざまな課題を克服する行動が、企業としても社会の豊かさに貢献していくことではないかと考えています。

「SgH First Stage Plan」最終年度への進捗状況を聞かせてください。

今回の中期経営計画は、10年後のSGホールディングスグループを見据え、それをベースに、最初の3カ年計画として「SgH First Stage Plan」を立案しました。目指す方向は明確ですので、経済環境は変わってもぶれはないですし、目標を下ろすわけでもありません。重点課題を鋭敏に察知し、達成に向けた行動を全社一丸となってしっかりやるのがすべてです。

経済の停滞は社会すべての問題なので弁解には役立たずかもしれないが、「危機だからこそ、今がチャンス」という逞しさがこのような状況を克服し、企業を進化させる知恵と行動を創造すると考えます。出口の見えない状況下では、その場しのぎのパフォーマンスでは乗り切れません。しかし、当グループはそもそも逆境に強い組織。逆境にこそ奮いたつ営業の現場力とそれを支える強固な組織力と対応力があります。現場力・組織力・対応力、その総和を佐川急便の広告キャッチコピー「Fit Your Business」には託しています。

SGホールディングスグループのCSRについて、どのように考えますか。また、事業活動とCSRの関連について、どう思いますか。

「物流」が産業・ビジネスや社会と密接に繋がっている状況を考えると、SGホールディングスグループの事業自体が大きな社会的責任を担っていると考えます。CSRという概念や行動を一人歩きさせずに、自らの事業を顧みて安全・安心な物流の遂行や環境への対応を日々の仕事として真摯に取り組むことが、大きなCSRにつながると信じています。SGホールディングスグループの事業は、直接お客さまと接することができるという強みがあります。そこでお客さまのご要望を把握し、問題点は見逃さずに対応できる組織を構築することが大切なのです。

コンプライアンス・内部統制は仕組みを優先させるのではなく、社会に生かされているという思想や思考を優先させ、道を外れた場合には回復できる機能がある



組織づくりが大切です。担当部署のみの活動ではなく、なぜ徹底できないのかを現場と一緒に考え、全社的に解決するよう努めなければなりません。今の内部統制・社内規程は優れたシステムになっていますが、たえず社会の倫理感に対応できる柔軟性は必要です。

今後の環境活動について、どのように考えますか。

環境活動は、当社グループ独自の目標を設定して遂行しています。もちろん、国や世界の動向も注視し連動する必要がありますが、企業として、また物流事業者として、その正当性や問題点を正確に理解・把握したうえで、解決に向けた活動を積極的に展開することが大切であると認識しています。

特に、時代の進化や社会の発展の中、新たな輸送手段や方法、代替エネルギーの採用等の重要課題についての判断は、国や世界の動向も注視しながら、その本質を見極めたうえでの対応が必要です。

社会や人、企業が未来に向けて次世代、次々世代のために何十年後という目標設定はとても重要です。また、同時に今眼前にあるCO₂の排出量を少しでも下げるといった行動も重要なのです。「エコ安全ドライブ」や「三輪自転車」などの斬新な輸送方法やエネルギー効率向上策は、現場の日常業務の中から生まれる発想です。現場力とは、営業活動だけでなくこのような環境活動の観点からも大切であると考えています。

SGホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長

栗和田 栄一

次代を育み目指す健全な社会～職場体験から

「物流って、暮らしと仕事を支えているんだ！」 ～社会のインフラ、「物流」の現場を職場体験～



職場体験のようす



お客さまよりお預かりしたお荷物が必要な時に、必要な場所に届く。昨日頼んだ商品が今朝届く。とても重要なことですが現代社会ではごく一般的になったことです。この当たり前を支えている「物流」は、まさに現代社会の産業・社会インフラを支えているシステムの一部と私たちは捉えています。この公共性の高い事業を真摯に営むことが、まさに企業の社会貢献活動（CSR）であると私たちは考えています。

SGホールディングスグループは、この「物流」の現場を通して次代を担う子どもたちの育成支援ができればという思いで、文部科学省がキャリア教育の一環として推奨している「中学生の職場体験学習」に全社的に協力しています。

in 佐川急便
東京店（東京）

経験で大きくなる 「ありがとうございます」の声

東京店での職場研修は、堀留町1丁目のサービスセンターで、日本橋中学校の1年生3人がお荷物の配達や集荷業務を体験しました。生徒たちは、初日は緊張と恥ずかしさから「毎度ありがとうございます。佐川急便です」の声もたどたどしかったのですが、2日目からは大きな声ができるようになり、職場の雰囲気や働く雰囲気にも慣れていきました。



〈佐川急便の職場体験 5日間のカリキュラム例〉

1日目	社会生活のモラルやマナー講習
2日目	営業店の見学 安全を学ぶ
3日目	企業への配達を体験
4日目	個人宅への配達を体験
5日目	お荷物の発送を体験

他の店舗で多く聞かれた職場体験した生徒たちの声

「車だけでなく、台車でも運ぶことを知ってビックリ！疲れるけど、毎日楽しかった。自分にあった職場体験だな、と思いました」

「荷物が重かったり、大変でした。でも、お客さまにありがとうって言われたときは、うれしかったです」

～職場体験やさまざまな場で伝える～

「物流」の役割、 SGホールディングスグループの責任

SGホールディングスグループは、デリバリー事業、ロジスティクス事業などの物流事業とともにそのシステムと体制を支える車両整備、保険、通関などさまざまな事業を行う企業をもつ総合物流事業グループです。「物流」というシステムは生活や仕事を支えるとても重要な役割を担う社会インフラのひとつといえますが、だからこそSGホールディングスグループは社会に大きな責任を担っていると考えています。私たちはさまざまな場でその重要な役割を伝え、責任を遂行していかねばならないと捉えています。

職場体験など、次代を担う生徒の方々や地域の教育に協力する中で、少しでも「私たちの職場」から仕事を共感し、その「学び」を勤労観への醸成につなげられるのであれば、事業を通じた次世代育成支援への貢献ではないかと考えています。

お預かりしたお荷物を、必要なときに、必要な場所に運ぶ「物流」

必要な時に必要な場所にモノが届く「物流」は、現代社会ではすでにごく一般的になりましたが、社会が進化し変化するなかではとても重要なことです。そのために、「物流」の仕組みやシステムは、輸送方法や手段など環境にも配慮しながらさまざまなプロセスを構築し、国内外にも緻密なネットワークを網羅するなど、さまざまな取り組みをしています。だからこそ、当たり前のように思える社会インフラともいえるのです。職場体験学習を通じて、SGホールディングスグループはこの目には見えない「物流」の役割や機能も、ぜひ、生徒たちに感じてほしいと考えています。



全国各地から集約したお荷物は
ハブセンターで、配送先別に
振り分けられる



オフィスや住宅街、産業や生活を活性化するパートナーとしての「物流」

「物流」の大きなひとつの目的は、産業や経済の活性化のためのサポートです。工場やオフィスから書類や製品など、とても多くのモノが運ばれます。しかも安全・安心に運ぶために「物流」は綿密にネットワークとして整備される必要があるのです。もうひとつの大きな目的は、生活を支えるための「物流」です。生活品や贈り物など、暮らしや社会に必要なモノを運ぶことです。

「物流」は仕事や生活のパートナーであり、それがSGホールディングスグループの責任と使命と考えています。

生活や仕事の重要なパートナーである「物流」



CO₂排出の少ない車両や配送方法など、環境にも配慮している「物流」



SGホールディングスグループは、 全国で職場体験を受け入れています。 仕事を通じて、「社会」への1歩を感じてほしい

SGホールディングスグループは、佐川急便やニューヴェルゴルフ倶楽部などの事業会社で、広く職場体験を受け入れています。生徒が社会の一員となって働く体験学習を、今後もSGホールディングスグループは社会への責任と使命として、積極的に地域の教育活動に協力していきます。

物流の最前線へ、佐川急便は57校178名を受け入れ

平成20年度 学生受け入れ実績

■職場体験

	小学校	中学校	高等学校	大学
参加校(校)	2	38	15	2
人数(名)	42	99	34	3

■インターンシップ

	小学校	中学校	高等学校	大学
参加校(校)	0	0	6	6
人数(名)	0	0	23	8

小学生だってセールスドライバーに!

職場体験は中学生だけでなく、小学生の受け入れも行っています。2009年3月に行われたフューチャーイノベーションフォーラムが主催する「『社会の最前線』見学～物流の最前線」に佐川急便が協力しました。「セールスドライバーの仕事を一身体験学習」と題して、小学校5、6年生20名が宅配便の流れや物流現場を見学し、実際に集配作業を体験しました。



インターンシップとして高校生、大学生也大歓迎

高校生や大学生のインターンシップの受け入れも行っています。2008年7月に広島店で実習を受けた高校生は、「笑顔で作業しているのを見て仕事の大切さと、お金をもらうことの大変さを実感できて勉強になりました」と感想を述べていました。

こうした職場実習をきっかけに卒業後、セールスドライバーとなって入社して頑張っているケースも多くあり、現場で講師を務める従業員自身も「自分の入社の時を思い出すとともに、若者たちの将来に対する責任も感じます」と職場体験を通じて、従業員も仕事観の見直しや出会いの重さを感じています。



仕事の笑顔はとても大切です

グループ概要

グループ

を担う
ひとつひとつの事業。
それは、発展する
社会インフラをも担う力です。

物流をはじめ、その周辺にかかわる事業への取り組み。そのすべてが、産業インフラ、社会インフラの発展につながっている。個々の力を高め結集させながら、ステークホルダーの皆さまを通じて、広く社会から信頼されるグループ企業として価値ある存在を追求していきます。

SGホールディングスグループ 事業と社会



交通安全教室



環境授業



財団活動



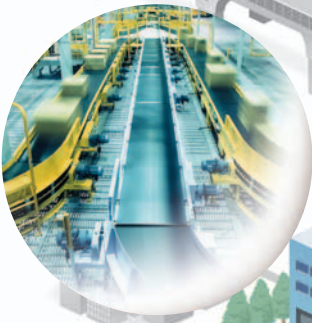
天然ガス充填スタンド



天然ガストラック



スーパーレールカーゴ



ハブセンター



佐川流通センター (SRC)



引越し



高尾の森の活動



お客さまへの配達



車両整備



サービスセンター



ITシステム



e-コレクト



フォワーディング





SGホールディングスグループの理念と指針

SGホールディングスグループの企業活動は、すべての経営者とすべての従業員の倫理観を持った行動によって築き上げられています。業務の適正を確保するための体制づくりと法令遵守体制の構築を図るため、「企業理念」「行動憲章」「倫理・行動規範」を制定し、全社で取り組んでいます。



SGホールディングスグループ企業理念

SGホールディングスグループは、佐川急便の創業の原点である「飛脚の精神（こころ）」を継承するとともに、人権の尊重および、法令の遵守をもって公正且つ自由な企業活動を行います。

「飛脚の精神（こころ）」とは
「迅速・確実・丁寧」をモットーに、

- 一. 顧客第一主義に徹する
- 一. 地域社会の発展に奉仕する
- 一. 責任と誠意を使命とする

SGホールディングスグループ行動憲章

—社会の信頼と共感を得るために—

(責任規定)

経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し率先垂範の上、SGホールディングスグループをはじめとする関係者に周知徹底させ、実効のある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。また、本憲章に反する事態が発生したときには、自らが問題解決にあたる姿勢を内外に表明し、原因究明、再発防止に努めます。

(共同宣言)

SGホールディングスグループのすべての役員および従業員は、いかなるときでも一致団結して次の原則を実践するために、責任をもって行動します。

(行動原則)

- 1 社会的に有用なサービス・製品を安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分配慮して開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得する。
- 2 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
- 3 国際的な事業活動においては、国際ルールやその国の法律の遵守はもとより、文化や慣習を尊重し、その地域の発展に貢献する経営を行う。
- 4 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動する。
- 5 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。
- 6 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決する。
- 7 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
- 8 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。

SGホールディングスグループ倫理・行動規範

私たちは、「SGホールディングスグループ行動憲章」を具体的に表現した本倫理・行動規範に則り行動します。

- 1 私たちは、顧客第一主義に徹して考え行動します。
- 2 私たちは、地域社会の発展に牽仕する事を考え行動します。
- 3 私たちは、公明正大に、責任と誠意をもって考え行動します。
- 4 私たちは、自分と職場の人たちの成長、よりよい仕事ができる職場づくりを考え行動します。

SGホールディングスグループ統一スローガン

安全 環境 そしてサービス

すべての品質を世界標準へ。

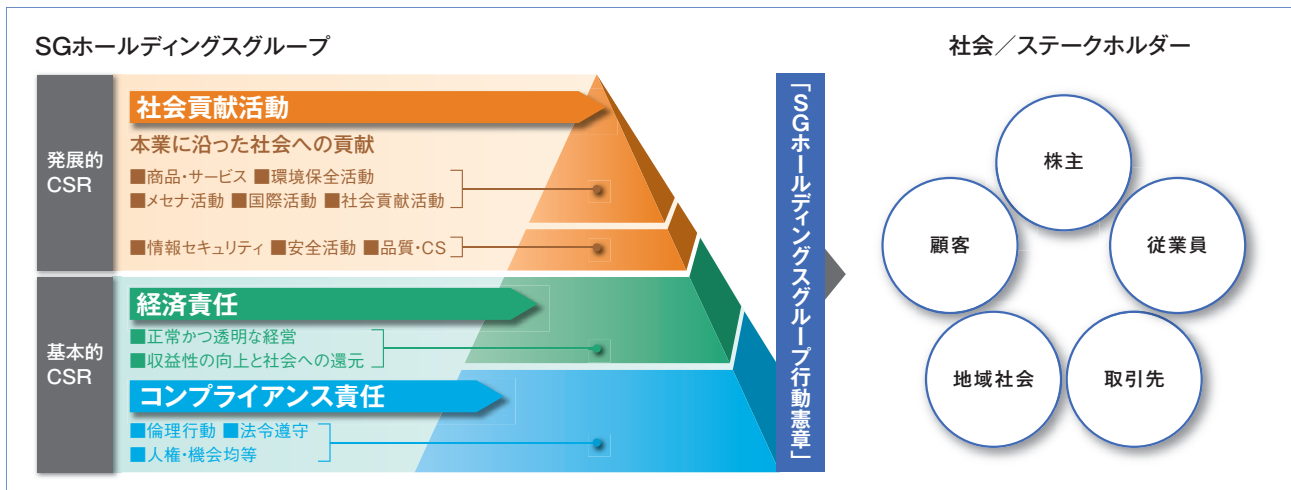
SGホールディングスグループのCSRの考え方と体制

CSRの基本概念

CSRを果たすことは、多様化・高度化する社会からの要請や期待に応えるための適応力であり、企業の信頼性の確保に努めるものと考えています。

当グループのCSR概念として、「基本的CSR」と「発展的CSR」の2つがあり、企業活動が存続するための「法令遵守」などは必須事項として、基本的CSRと捉えています。この基本的CSRの上に、顕在化するさまざまな社会からの期待や要請に対応し、貢献していくための発展的CSRがあります。この2つの柱でCSRを成り立たせるものと考えています。

SGホールディングスグループ CSR基本概念図

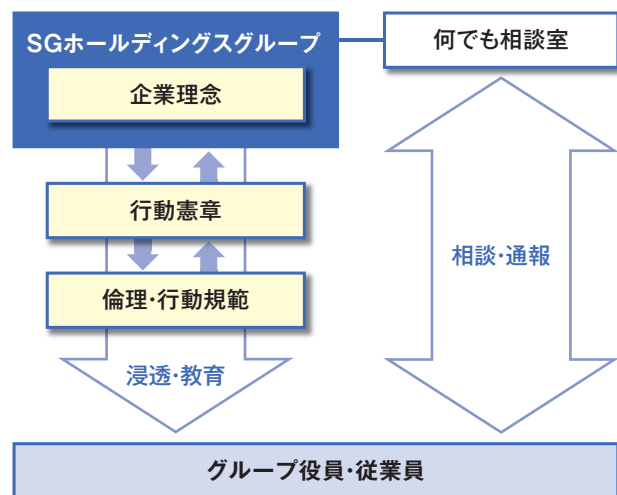


CSR推進体制・「倫理・法令遵守 (コンプライアンス) 体制」への取り組み

CSR委員会は、「SGホールディングスグループ行動憲章」の実践を目指して、グループ全体の経営に反映すべく管理体系の構築と、継続的改善活動を推進することを目的としています。2007年度より「基本的CSR」の抜本的な整備に向け、グループの「企業理念」「行動憲章」を統一するとともに、SGホールディングスグループ「倫理・行動規範」を策定し、当グループの企業活動と、働く従業員の行動によって築く「倫理・法令遵守体制」の実効性のある体制整備に向け取り組んでいます。

※CSR委員会はSGホールディングス株式会社の取締役全員で構成されています。

SGホールディングスグループ「倫理・法令遵守体制」大綱



内部統制システムの基本方針（概要）

SGホールディングス株式会社は、グループの企業活動全般にわたり、企業としての社会的責任を果たし、株主をはじめとするステークホルダーの信頼を得るために、不祥事を防止し、業務執行の有効性・効率性、法令の遵守および財務報告の信頼性を確保するための内部統制システムを構築することが必要不可欠であり、本方針を以下のとおり定めています。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 業務執行体制 | 6 企業の社会的責任 |
| 2 情報の取り扱い | 7 業務遂行体制に関する事項 |
| 3 財務面の統制 | 8 監査体制に関する事項 |
| 4 業務執行に関する情報の保存および管理 | 9 取締役および従業員の監査役への報告体制 |
| 5 リスク管理の原則 | 10 内部監査体制 |

コンプライアンス経営を強化し、社会からの信頼回復を目指します

『報告～花火（航空機搭載制限貨物）の航空運送に関する再発防止について』

佐川急便（株）・佐川グローバルロジスティクス（株）による花火（航空機搭載制限貨物）の航空運送がありました

概要・経緯

佐川急便（株）は東京都内において、顧客より石垣市行きの花火を、内容品確認せず航空貨物として受託し、佐川グローバルロジスティクス（株）へ当該貨物の航空運送を委託しました。同社ではX線検査機器にて保安検査を行いました。花火とは認識できず、コンテナに搭載したもので、石垣空港において航空会社により発見されました。

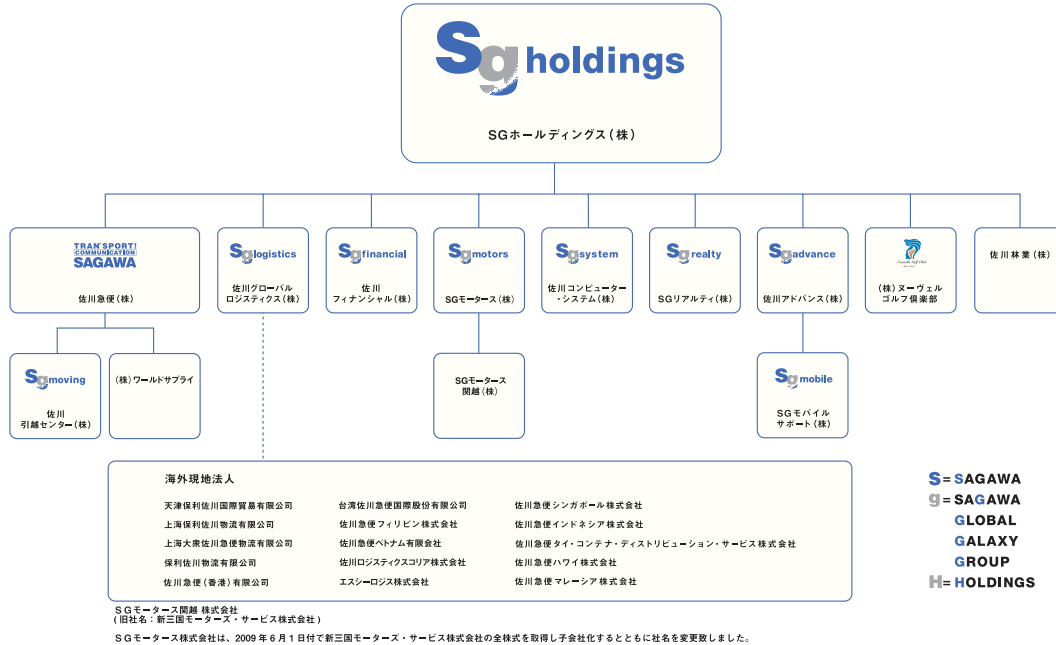
対応・再発防止対策

両社は再発防止に向け速やかな対応を行い、国土交通省へ改善報告書を提出しました。通達にて従業員に概要を周知し、貨物を受託する際の内容品の確認、保安検査要員の再教育等、航空貨物取り扱い時の注意事項について指導し、保安体制を強化しました。

SGホールディングスグループでは、今回の事態を厳粛に受け止め、ご迷惑をおかけしたことを慎んでお詫び申し上げます。
 今後はコンプライアンスのさらなる取り組みを強化し、グループ一丸となって再発防止に取り組んで参ります。

SGホールディングスグループ 事業体制と国内事業概要

SGホールディングスグループ 事業体制と国内事業概要



主な国内事業会社の事業概要

佐川急便

佐川急便は、SGホールディングスグループの中核会社として、宅配便事業の強化・拡大に加え、グループ各社と連携し、物流のトータルソリューションを提供しています。1日のお荷物取り扱い個数は、通常期で約450万個、繁忙期になると600万個を超え、膨大なお荷物を迅速・確実・丁寧に運んでいます。これからも、お客さまによるご褒めサービスを提供し、社会から選ばれる企業となれるよう、お荷物と真心を運ぶ現代の飛脚として事業を展開していきます。



佐川引越センター

国内16カ所に事業所を設置し、全国の協力会社と提携して、365日営業体制で国内引越輸送のサービスや、佐川急便では輸送が困難な特殊商品の輸送、また大型家具・家電の設置輸送や、産業廃棄物の収集運搬業務などにより、お客さまごとの最善の物流環境をご提案し、満足いただけるようなサービスの提供を続けています。これからの物流業界に求められるものは何か。私どもにできることは何かを常に真剣に考え、お客さまと社会に貢献できる企業を目指しています。



佐川グローバルロジスティクス

国内外のネットワークを活かしたグローバルなロジスティクスサービスを通して、お客さまのビジネスを支えています。アジア・ASEAN地域をはじめ、北米、欧州におけるネットワークを活用し、国内のみならず国際物流全般のソリューションを拡充していきます。また、ロジスティクスを経営戦略上の重要な課題とお考えになるお客さますべてのご要望にお応えし、お客さまと社会に貢献できる企業を目指していきます。



佐川フィナンシャル

SGホールディングスグループの代金引換サービスである「e-コレクト」決済事業を中核とした多様な金融サービスを提供しています。「e-コレクト」サービスは、従来の現金に加えクレジットカードおよびデビットカードによる決済を可能にしたことが消費者から支持をいただき、通販市場の拡大ともあいまって、取り扱い件数、決済金額ともに極めて順調に成長してまいりました。
 (2008年度実績: 年間決済金額 1兆2千115億円)



SGモーターズ

SGホールディングスグループをはじめ、全国の一般ユーザーさまが使用する自動車の車検・点検整備、各種自動車の新車・中古車販売および車両ボディの製造など、自動車に関する幅広い経験とノウハウでお客様の要望にお応えする、トータルカービジネス事業を展開しています。国内に指定整備工場を15工場、認証整備工場を6工場、ボディ製造工場を2工場配置し、全国ネットのサービスを実現しています。



また、地球環境保全への取り組みとして開発した、環境配慮車両ボディ「ECO車体」は、導入累計7,000台を突破するなど、カービジネス事業における環境活動を積極的に実践しています。

佐川コンピューター・システム

SGホールディングスグループにおける情報システムのコンサルティング、構築、運用・管理を担う一方で、経営的・戦略的観点を持って、お客さまを第一に考えたシステムやソリューションを提供する“情報戦略のシンクタンク企業”として歩んできました。これまでの実績と、そこで蓄積した技術やノウハウを活かし、これからも、物流業界だけにとどまらず、幅広い分野のお客さまへ実務に直結したソリューションを提供していきます。



佐川アドバンス

SGホールディングスグループにおける「総合サービス企業」として、現在では、保険代理店業・旅行代理店業・人材（財）派遣事業・通販・リテール事業を軸に、さまざまなサービスを提供し、着実に実績を重ねてきました。

独立した子会社のSGモバイルサポートも事業領域を拡大するなど、これからもADVANCE（前進・進歩）に込められた進取の気風と心意気を失わず、新たな市場や事業に「変革・挑戦・スピド」を旗印に取り組みます。



SGモバイルサポート

移動体通信基地局設置事業として、置局交渉、設計・施工・監理、メンテナンス。建築設備工事事業として、電気、通信、防災設備、土木建築、給排水、衛生設備、空調設備の各工事。施設関連事業として、時間貸駐車場管理、高度セキュリティシステム、緊急メンテナンス、ファシリティ設置代行と幅広い領域のスペシャリストの集団です。社会から求められる事業として、インフラ整備をはじめ、新しい事業に挑戦していきます。



SGリアルティ

SGホールディングスグループは、デリバリー事業・ロジスティクス事業等を行うために、多くの不動産施設を保有または賃借しています。それらの不動産施設の大多数を保有し、管理・運営全般を集約するとともに、有効活用や新規開発を行う総合不動産会社として誕生したのが、SGリアルティです。物流不動産を中心としたグループの不動産資産及び施設インフラの確固たる戦略（PM戦略・CRE戦略[※]）で、グループ内外のお客さまの事業に貢献していきます。



※PM戦略は賃貸借のあり方や日常管理および中長期修繕計画のコスト・仕様を最適化し、不動産からの収益や価値の最大化を図ること。CRE戦略は、企業不動産を総合的・戦略的に再構築し、企業価値の向上を図ること。

ニューヴェルゴルフ倶楽部

千葉県山武郡大網白里町にあり、都心より50km圏内で箱崎ICより約50分という好立地です。上総丘陵の山武杉に囲まれた緑豊かな林間コースは、アップダウンも少なく、涼しい木陰を乗用カートで快適にプレーいただけます。最大の魅力のひとつであるグリーンは、「ペンA-1」という品種を使用し、プロトナメントさながらの繊細なタッチをお楽しみいただけることでしょう。笑顔と真心のサービスで、皆さまのご来場をお待ちしています。



佐川林業株式会社

- 財団法人**
- 財団法人佐川留学生奨学会
 - 財団法人佐川国際経済協力会
 - 財団法人佐川がん研究助成振興財団
 - 財団法人佐川美術館

- 外郭団体**
- SGホールディングスグループ健康保険組合
 - SGホールディングスグループ企業年金基金

ワールドサプライ

株式会社ワールドサプライは、2009年2月に新しくSGホールディングスグループに加わりました。主な業容としては、百貨店や量販店への納品代行業務、商品管理事業、食品配送業務などです。グループに加わることで、流通事業者への納入ルートの一元化が可能になり、また食料品の分野では百貨店、量販店へのワンストップ物流体制の構築などにより、さらにSGホールディングスグループの物流サービスが強化されます。





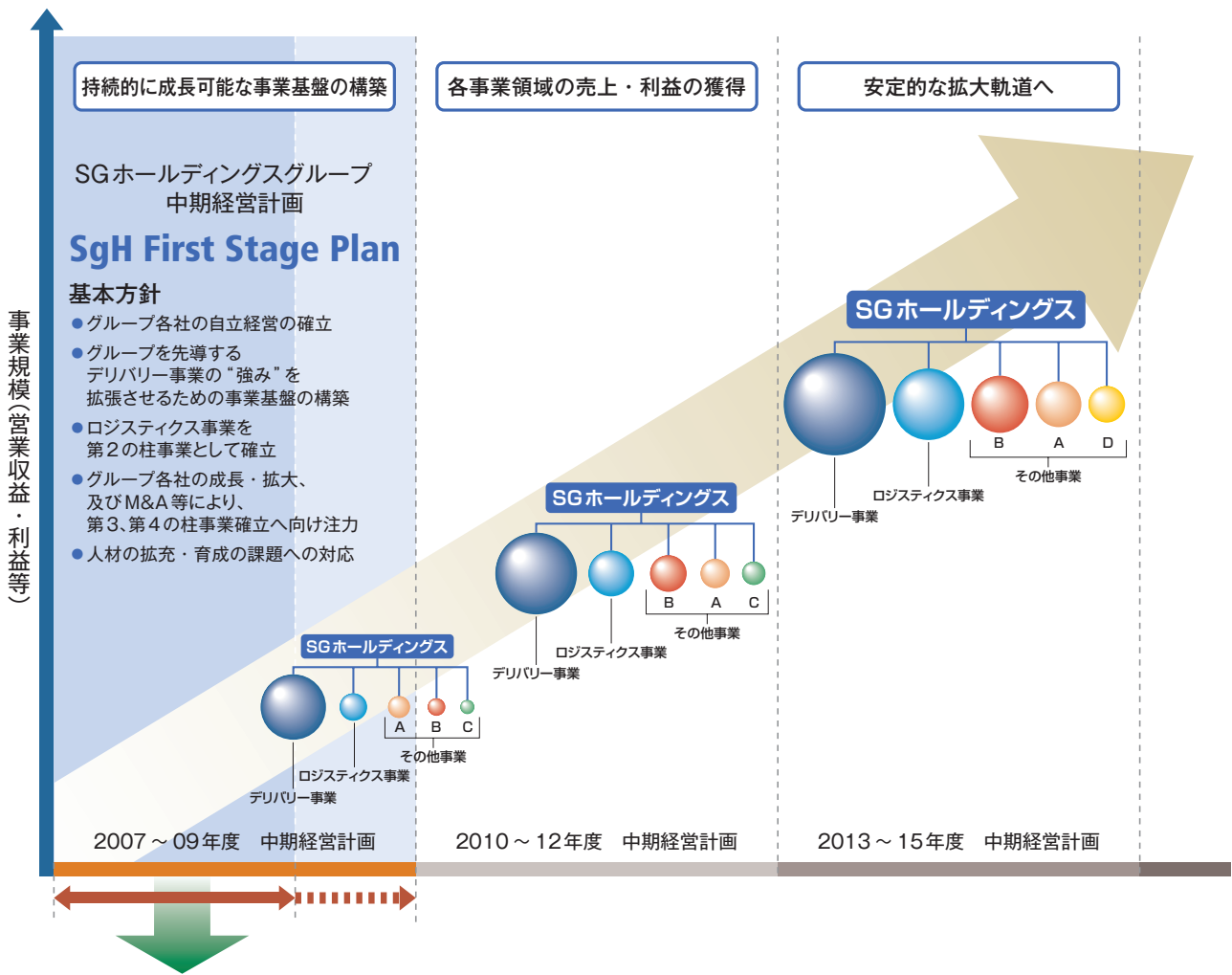
SGホールディングスグループ 経営ビジョンと中期経営計画

「グループ各社が、それぞれの事業基盤を築き、新たな価値を創出する」

顧客ニーズの変化、市場環境の変化に迅速に対応し、未来永劫繁栄すべく変革・挑戦し続け、新たな「価値」を創造し、第2、第3、第4の柱となる事業を確立することに取り組みます。



〈中期経営計画〉



■中期経営計画『SgH First Stage Plan』の2年目としての結果

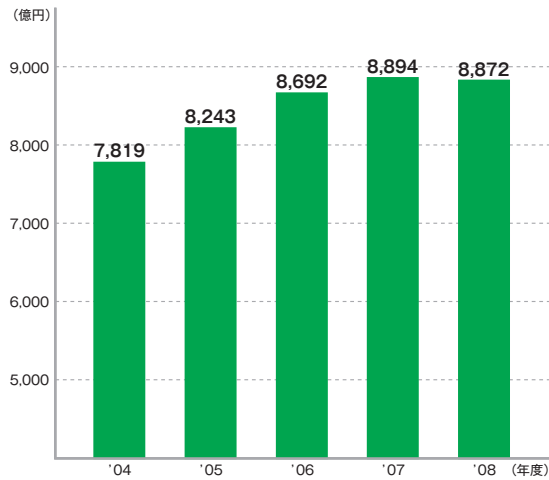
●飛脚宅配便の取扱個数は堅調に推移しているが、景気後退の影響などにより営業収益はほぼ横ばいとなりました。営業利益については2010年3月期および次期中期経営計画につなぐ投資・費用支出のため減益となりました。

※2009年3月期決算 営業収益8,872億円 営業利益220億円

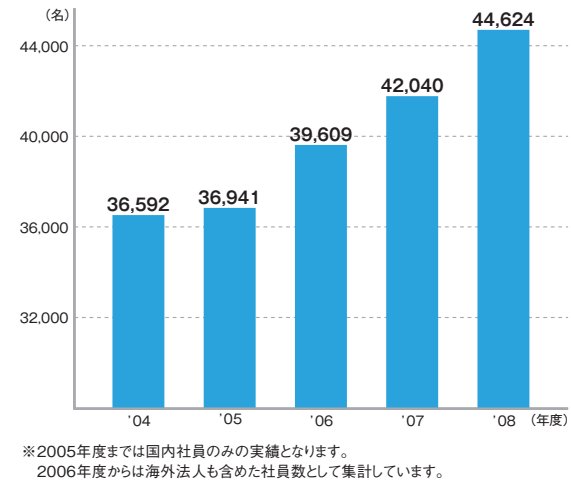
●2008年度は景気後退の影響から収益・利益で伸びを欠いているものの、現中期経営計画の基本方針である「持続的に成長可能な事業基盤の構築」のための積極的投資を継続できたことから、次期中期経営計画の基本方針である「各事業領域の売上・利益の獲得」への橋渡しが可能となりました。

SGホールディングスグループ事業データ

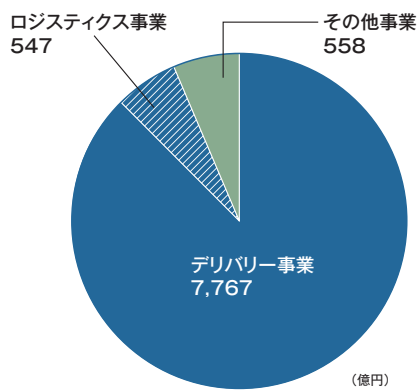
営業収益 (連結)



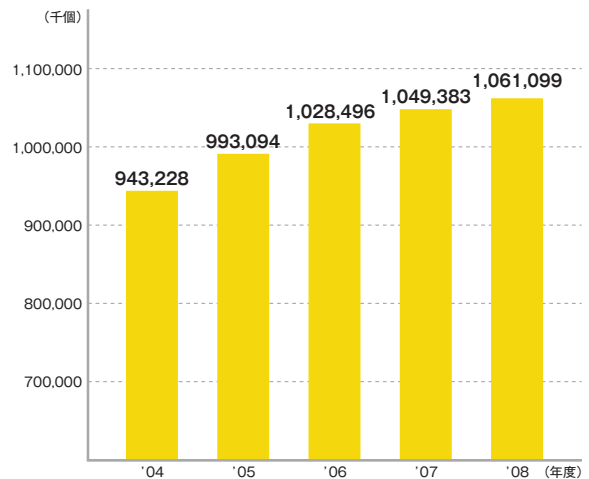
社員数 (連結)



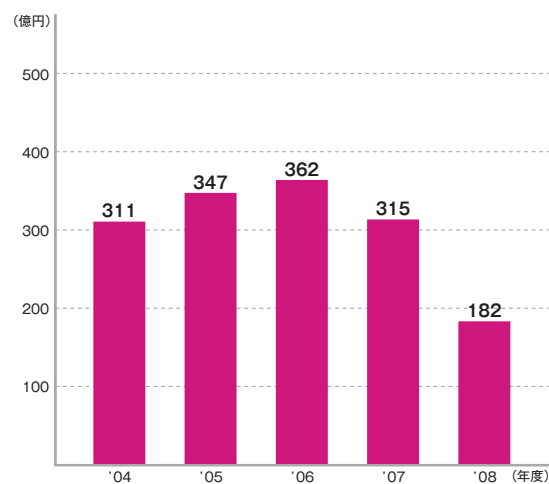
営業収益構成 (連結)



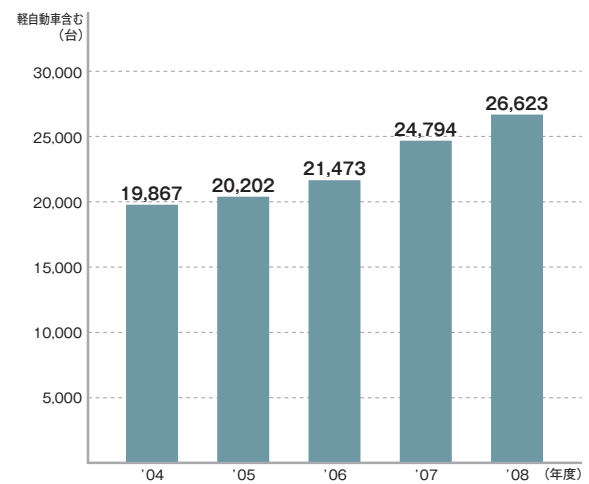
宅配便取扱個数 (佐川急便)



経常利益 (連結)

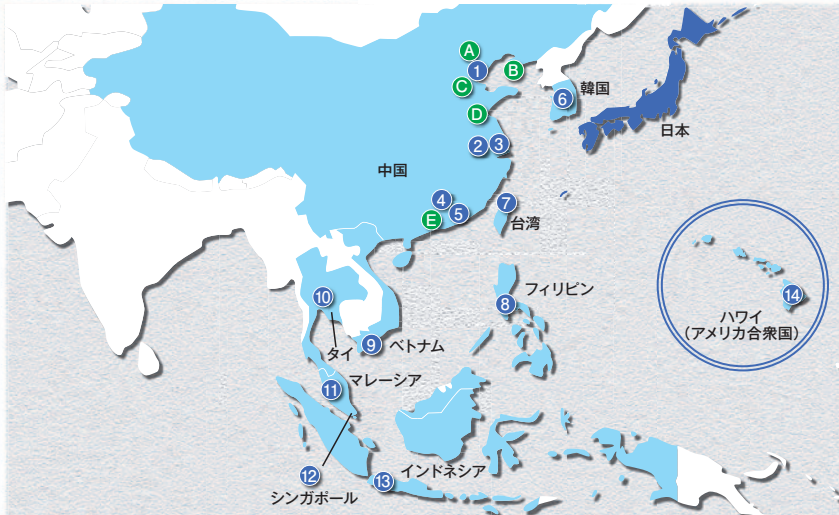


保有車両台数 (佐川急便)



SGホールディングスグループ海外拠点

「アジアの時代」といわれる今日、ダイナミックに変化し続けるアジア・中国地域において、SGホールディングスグループは国内で培ったさまざまなノウハウでその物流インフラ構築のサポートをしています。



1 天津保利佐川国際貿易有限公司



貿易業務やフォワーディング*1事業を中心に展開。また、自社で所有する保税倉庫で金属部品や車などの保管代理業務を行っています。

5 佐川急便(香港)有限公司



フォワーディング事業をはじめとし、倉庫ロジスティクス、輸送、クーリエ、引越しの各事業展開を行っています。

9 佐川急便ベトナム



フォワーディング事業からトラック輸送までの一貫した輸送サービスを提供。保税倉庫を持ち、物流加工事業なども行っています。

10 佐川急便タイ・コンテナ・ディストリビューション・サービス株式会社



21,000m²の自社倉庫を利用した倉庫・保管業務をはじめ、フォワーディング事業、クーリエ事業を行っています。

2 上海大衆佐川急便物流有限公司



上海市内の宅配便事業を主に展開しています。取り扱う荷物は通販の商品が多く、代引きサービスも提供しています。

6 佐川ロジスティクス コリア株式会社



韓国国内の輸送業務を中心に展開。電子商取引貨物取り扱いを中心に、クーリエ・フォワーディング事業を展開しています。

11 佐川急便マレーシア株式会社



フォワーディング事業を中心に展開。現地のスタッフのみで構成されており、地元へ根差したサービスを展開しています。

3 上海保利佐川物流有限公司



クーリエ*2事業やフォワーディング事業、またお客さまの要望に合わせた3PL*3事業などを中心に展開しています。

7 台湾佐川急便国際股份有限公司



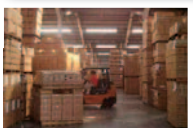
倉庫物流業、海上運輸業、クーリエ事業などの事業を展開。また自社トラックによる台北地区での小口集配業務も行っています。

13 佐川急便インドネシア株式会社



フォワーディング事業をはじめ、倉庫業、クーリエ事業などを展開。ジャカルタ近郊の日系企業を中心にサービスを展開しています。

4 保利佐川物流有限公司



フォワーディング事業や物流加工事業などが中心。北京、大連、天津、青島、広州に分公司と呼ばれる営業拠点を置き、展開しています。

8 佐川急便フィリピン株式会社



トラック輸送を含めた総合一貫輸送を担います。また日本の政府開発援助に必要な建材などの重量物の輸送も取り扱っています。

14 佐川急便ハワイ株式会社



日本人観光客が購入する土産物の輸送に関するオペレーション業務を行っています。

- A 保利佐川物流有限公司 北京分公司
- B 保利佐川物流有限公司 大連分公司
- C 保利佐川物流有限公司 天津分公司
- D 保利佐川物流有限公司 青島分公司
- E 保利佐川物流有限公司 広州分公司

*1 フォワーディング……国際事業における輸出入にかかわる輸送や税関手続などの代理業
 *2 クーリエ(国際宅配便)……国際航空便を利用して、書籍や小荷物などを短時間で送るサービス
 *3 3PL……企業の流通機能全般を一括して請け負うアウトソーシングサービス

安全への取り組み

安全 は、すべてに優先する。
その使命を
果たすため、
人に環境にやさしく走ります。

トラックを使用した物流事業を中核とする企業グループとして、人命を第一に「安全と安心」を届ける使命を果たしていきます。

ドライバーの安全意識の高揚と運転技術の向上、徹底した車両管理、そして、地域の皆さまとの連携を通じて安全性の向上に努めてまいります。

安全運転の意識と技術の向上を目指して

全日本トラック協会主催 全国トラックドライバー・コンテスト 日本一の栄冠への“歩み”

プロドライバーに必要な安全運転。社会的責任は重く、一人ひとりに高い運転技術とマナーが求められます。その頂点を競う「全国トラックドライバー・コンテスト」の表彰台。それは平凡な日常の積み重ねです。

茨城県、安全運転中央研修所。そこに伊藤将大（東京路線営業所所属）の姿がありました。2008年10月25日（土）、26日（日）に開催された「第40回全国トラックドライバー・コンテスト」で、彼は11トン部門で初出場し、最高の栄誉である内閣総理大臣賞を受賞。トラックドライバーの頂点に輝きました。しかし、その道程は見えない「幸運」と「努力」による結果でした。

社内のドライバーコンテストでは、11トン部門で第3位。東京都トラック協会のコンテストでは、同部門で第2位の結果。本来、全国トラックドライバー・コンテストへ出場する権利はありませんでした。しかし、同一事業者からの出場は各都道府県で1名との出場制限により、優勝した11トン部門の選手が辞退し、繰り上げで出場する権利を得たのです。

「つかんだチャンスを絶対に活かしたい」優勝に恵まれなかった伊藤の決意は、一層強くなりました。「繰り上げ出場」をバネにドライバーコンテストに向けひそかに勉強を始めました。優勝という栄冠への道程で、忘れられない思い出は、仲間、上司、そして家族の並々ならぬ支援でした。日頃の業務を通じて先輩から技術を学ぶとともに、日頃厳しい上司もこのときばかりは、練習する伊藤への支援がありました。

子どものはとくん（当時3才）の「パパガンバッテネ」は何よりの励みでした。そして奥さんは、伊藤が帰宅するまでに子どもを寝かしつけ、集中して勉強できる時間と環境を作りました。そして何よりも、伊藤はそれに甘えず努力を重ねました。「職場と家庭が一体となつての応援でした。本番で力を発揮できたのは、そんな気づかいのおかげです」と伊藤。

優勝の栄冠を獲得した際「もうご家族に連絡しましたか？」とのインタビューに伊藤は「していません。家族には帰宅してから直接報告します」と回答。家族への感謝の気持ちが伝わってきました。しかし、連絡がなかったため奥さんは「あ〜あ、またダメだったんだ」と、落ち込んでいる“はず”の伊藤を励まそうと帰りを待ちました。「職場、家族の温もりに感謝です」。

トラックを運転し、日々業務に打ち込む彼の表情には、安全という社会的責任を担うプロドライバーとしてのプライドが溢れていました。



晴れ舞台までの道のりは平坦ではなかった

第40回 全日本トラック協会主催 全国トラックドライバー・コンテスト

全国トラックドライバー・コンテストの晴れ舞台。それは、日本一高い運転技術を競うドライバーの晴れ舞台です。しかしここまで勝ち上がるには、乗り越えなければならない多くの障壁があります。全国では、3万数千名のドライバーによる予選が行われ、営業店の代表を選出し、数百名が支社大会に臨みます。その中から優秀な70名の選手を選抜して「佐川急便全国ドライバーコンテスト」が行われます。社内だけでも3つの大会に挑戦です。そして、各都道府

県トラック協会主催のドライバーコンテストで他の運送会社から出場してくる選手たちと競技し、4トン、11トン、女性、トレーラーと、各部門で優秀な成績を取めた者が、全国トラックドライバー・コンテストへの出場権を獲得します。

全国トラックドライバー・コンテストは約170名の代表選手が各部門で競い、部門の優勝者に「警察庁長官賞」が、全選手の中で最高得点者1名に「内閣総理大臣賞」が授与されます。

- 10月下旬 全国トラックドライバー・コンテスト
- 6月～9月ごろ 各都道府県大会
- 5月末 佐川急便全国ドライバーコンテスト
- 3月～4月 各支社大会
- 2月～4月 営業店大会

詳しくは次ページへ

1日目

- **整備点検競技** (配点200点: 4t/女性部門7分、11t/トレーラー部門8分)
車両の安全を確保するための点検内容を審査。速く確実な点検が高得点を生みます。
- **学科競技** (配点450点: 60分)
マークシート方式により道路交通法、道路運送車両法などプロドライバーとしての運転常識について競技を行います。



2日目

- **運転競技** (配点350点: 各部門とも10分)
コース走行、課題走行の他、運転操作、安全確認など、幅広く審査が行われます。



3部門で優勝！

成績発表！

全国の予選を勝ち抜いた33名が出場。11名が入賞しました。

11トン部門 2年ぶり通算13度目の内閣総理大臣賞受賞！



東京路線営業所 伊藤 将大

日々の勉強など苦勞の連続でした。周囲の方や指導員の支えがあってこそのおかげです。

入賞者一覧

【4トン部門】

順位	氏名	営業店名	得点	備考
1	高島 博之	高松店	980	警察庁長官賞
2	坂巻 祐二	岩槻店	975	
3	櫻井 淳	亀岡店	970	
4	井上 孝志	佐伯店	970	

【11トン部門】

順位	氏名	営業店名	得点	備考
1	伊藤 将大	東京路線営業所	985	内閣総理大臣賞 警察庁長官賞
3	小林 哲也	札幌店	970	

【女性部門】

順位	氏名	営業店名	得点	備考
1	芦澤 ひとみ	城西店	945	警察庁長官賞
2	杉本 こなつ	東大阪店	944	
3	江口 真央	長崎店	938	
4	尾石 知未	京都南店	933	
5	村田 理恵	高松店	920	

※今回、2トン部門はありませんでした。
※各部門の優勝選手が所属する高松店、東京路線営業所、城西店には国土交通大臣賞が、また入賞者全員に全日本トラック協会長賞が贈られました。

4トン部門

上位独占！



高松店 高島 博之

速度や安全確認への意識が高まり、普段でもより安全な運転ができるようになりました。

女性部門

2年連続独占！



城西店 芦澤 ひとみ

平常心で臨んだのが勝因。ともに学んだ仲間や経験は生涯大切にしていきたい。

優勝者が麻生首相を表敬訪問

2009年1月15日(木)、各部門の優勝者が首相官邸を訪れ、コンテストの結果を報告。改めて優勝の重みを実感し、安全に対する責任感が強くなりました。



写真提供: 全日本トラック協会

第16回 佐川急便全国ドライバーコンテスト

安全への熱き戦いなら
こっちも負けてない!

2008年5月30日(金)と31日(土)、神奈川県佐川急便研修センター自動車教習所で開催された、佐川急便全国ドライバーコンテスト。グループ会社を含め、全国から選ばれた総勢70名のドライバーによって競われました。安全に対する知識の習得状況や安全・環境に配慮した運転技術、日常点検の技量を競いました。この大会では、新たに「指導員部門」を設け、新人ドライバーの指導にあたる指導員が、指導力を競いました。安全の覇者を目指して、いざ真つ勝負!



とことん厳しく! 1点、1mmにこだわる!

例年、成績の上位者は僅かな点差で大きく順位が変わります。1点でも高い得点を取るため、選手は全員必死で頑張っています。また、運転競技の「課題走行」では設置物と車体の間隔で大きく減点されます。審査員もmm単位の正確さを期して測定しています。

学科競技 (配点400点)

内容は、「道路交通法」「運行管理に関する知識」「車の構造に関するもの」など100問出題され、○×形式で解答します。細かい数値を問うものや難問もあり、記憶力と知識が試されます。



点検競技 (配点200点)

あらかじめ不良箇所を設けた車両を点検し、制限時間内に不良箇所をすべて発見できるかを競います。特に、タイヤの空気圧の良否をハンマーで叩いて判断することは難しいようです。



運転競技 (配点400点)

交通ルールや運転マニュアルに沿った安全確認、運転動作ができていないかを審査します。「エコ安全ドライブ」にも重点を置き、燃料の使用量を測定する競技も取り入れました。また、通常の走行以外に「課題走行」として縦列駐車を実施。後部や側方の設置物と車体の間隔を、基準値に近づけるかを競います。



総合優勝! 息子たちの応援に奮起!



高野口店 山田 祐介

予選から頑張ってきた結果、後押ししてくれた多くの方々に感謝です。特に家族の励ましは、大きな力になりました。

団体表彰

部門	団体名	得点
優勝	関西地区	平均 938.89
2位	東北ブロック	平均 930.50
3位	九州ブロック	平均 923.25



団体優勝 関西地区

個人表彰

部門	順位	氏名	営業店名	得点
総合優勝		山田 祐介	高野口店	960
		※2トン、4トン、11トン部門の最高得点者より選出		
2トン部門	1	細野 慶弘	一宮店	960
	2	武部 俊治	金沢店	955
	3	白石 鉄平	東大阪店	955
	4	永田 幸佑	八代店	951
	5	笠井 基行	新庄店	946
4トン部門	1	山田 祐介	高野口店	960
	2	岡田 卓也	奈良店	957
11トン部門	1	関沢 伸也	豊田店	953
	2	黒澤 宏次	東北路線営業所	943
軽部門	1	杉本 こなつ	東大阪店	965
	2	藤岡 奈穂子	古川店	942
指導員部門	1	楊枝 慎也	姫路店	916
	2	中嶋 吉市	青森店	915
新人部門	1	黒澤 宏次(11ト)	東北路線営業所	943
	2	黒田 貴浩(軽)	宮崎店	936
エコ安全ドライブ部門	1	溝上 浩之(11ト)	澁心ヶ-沼輪新	999
	2	伊藤 将大(11ト)	東京路線営業所	998
特別賞 (女性選手)	1	高島 ゆう子(2ト)	東京店	925
	2	関藤 恵美(軽)	倉敷店	912



安全性向上へのスキーム

安全管理体制

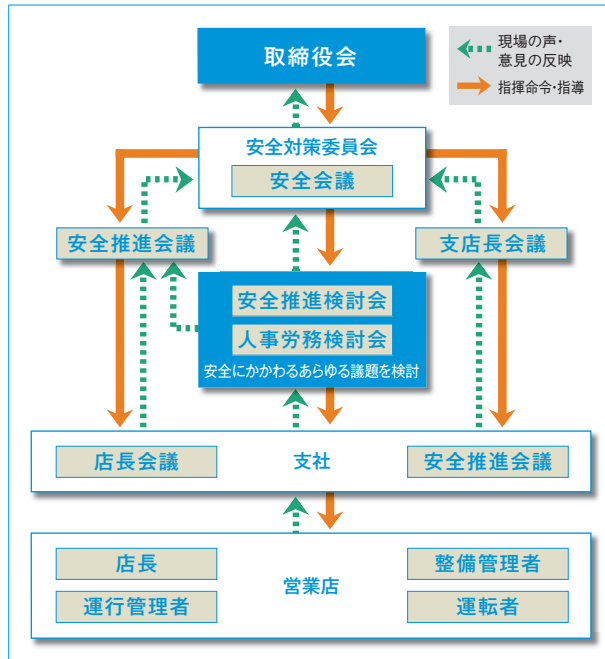
佐川急便では、安全確保を経営の最重要課題とし、安全対策委員会を設置。2006年10月、貨物自動車運送事業法により「輸送の安全性を向上させる」ことを目的に運輸安全管理マネジメントが法制化されましたが、それに先駆け2003年に設置したものです。

委員長には管理担当取締役が、副委員長、委員には取締役、執行役員、支社長、実運送を行うグループ会社の代表取締役など、経営幹部が委員会を構成しています。委員会は安全会議を毎月定例で開催。安全活動の進捗状況や、安全確保についてハード、ソフトの両面からさまざまな対策を討議しています。また、支社、営業店の安全推進担当者による検討会も定例で開催し、現場の声を中心に安全対策の改善を図っています。

安全運転管理体制のひとつに、ドライバーの拠点となる営業店に専任の安全推進職を配置。ドライバーと円滑な双方向のコミュニケーションにより、安心して乗務できる環境を整えることを安全活動の中心としています。

◎安全管理組織体制図

※2009年5月1日より



ライセンス制度により安全性を向上

優秀なドライバーと指導員の育成・認定を行う制度として「佐川ライセンス制度」があります。安全にかかわるライセンスは2つで「SD指導員」と「安全運転検定員」です。

「SD指導員」は業務に精通した従業員から知識・技術・指導力等があり、試験に合格した者を認定。OJTにより新入社員をマンツーマンで育成します。また「安全運転検定員」は管理者やベテランから、専門的な知識・技術に加え、判断力を備えた者が「安全運転検定員」として認定を受け、新入社員の独り立ちの可否の見極めなどを行う重要な役割を担います。

指導と見極めの機能を分離することで人材育成の充実を図っています。

現在SD指導員は9,029名、安全運転検定員は2,172名が認定を受けています。

※2009年3月20日現在

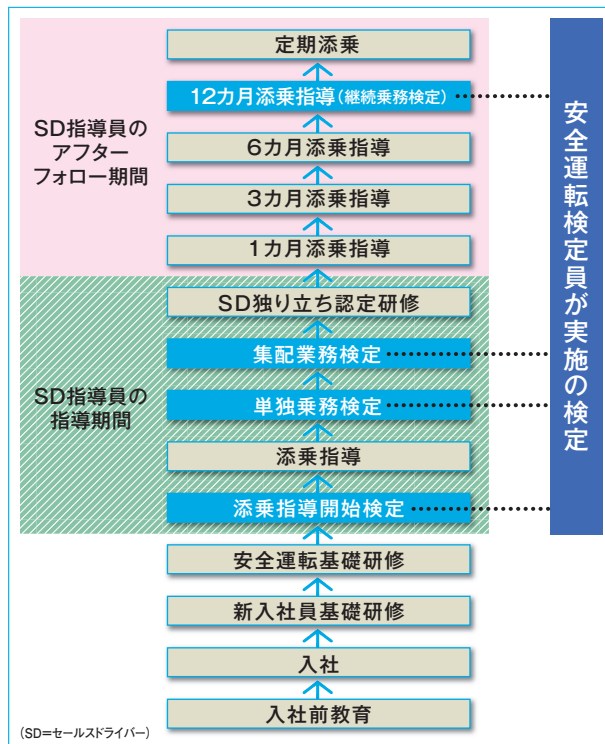


「SD指導員」ライセンス証



「安全運転検定員」ライセンス証

◎新人ドライバーの育成フロー





エコ安全ドライブの取り組み

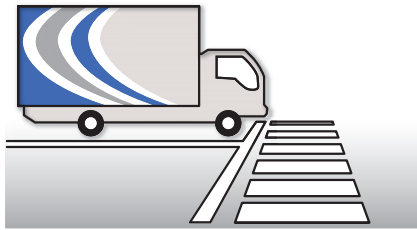
エコ安全ドライブの推進

佐川急便では「エコ安全ドライブ 7ヶ条」を定め、安全確保と環境にやさしい運転に取り組んでいます。「エコ安全ドライブ」の基本は、まず急発進、急加速や急停止などをしない運転のこと。それに、発進や走行時のエンジン回転数の上限設定や、ギアチェンジのタイミングにかかわる運転技術を向上させることです。それらによって、安全・環境面に加えて、

燃料使用量も抑制でき、コスト面でも大きな成果が得られます。また、「エコ安全ドライブ」を浸透させるため、管理者や指導員は専門の研修に参加。2009年度は「エコ安全ドライブ大作戦」として前年比5%の燃費向上を目標に取り組みを開始しました。

◎エコ安全ドライブの例

ふんわりアクセル「eスタート」の実践



宅配中心の運転では、発進・加速時に燃料を多く消費していることから、エコ安全ドライブの最重要課題はまず「発進」時。ふんわりアクセルが決め手です。

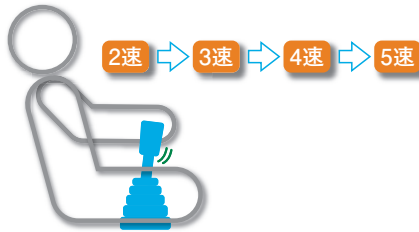


発進時、ふんわりアクセルで自然に車間距離が長くなり、確実な安全確認が可能です。

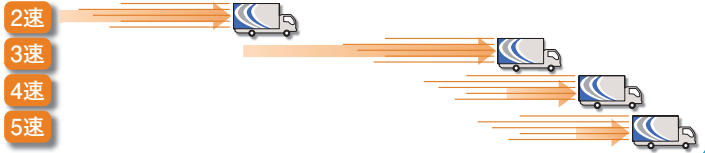
シフトアップは早めに操作

早め、早めのシフトアップで、加速時のアクセルの踏み込みは浅くなります。ブレーキ操作も速くなり、制動距離*を短くすることができます。

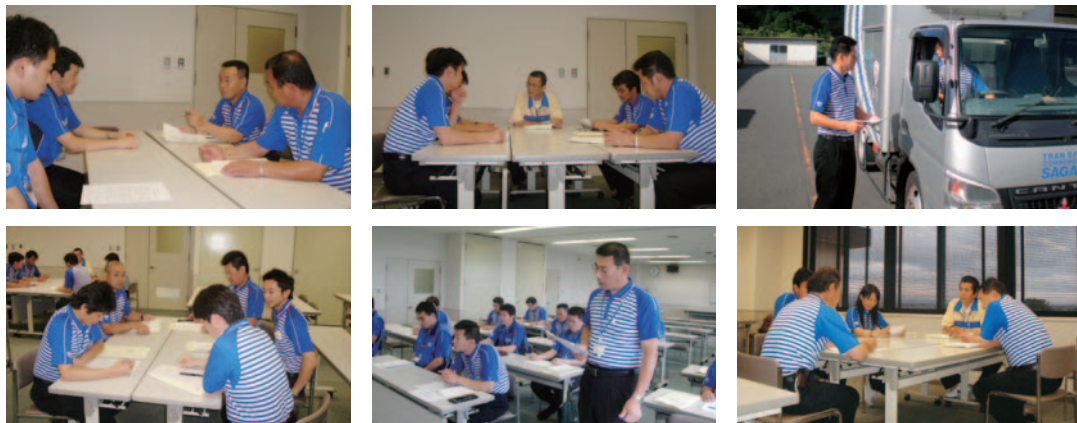
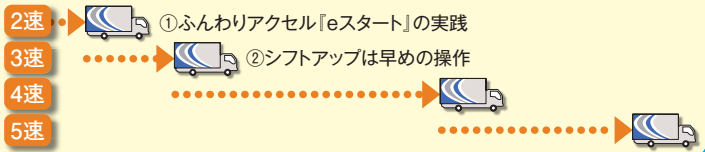
*ブレーキペダルを踏んで停止するまでに車が走行する距離



従来の加速重視の発進



やさしい運転、燃費を向上させる発進・加速



2008年度は5回のエコ安全ドライブ研修を開催し154名が受講しました

アイドリングストップで排出ガス削減に貢献

「エコ安全ドライブ7ヶ条」のひとつ、駐車時はキー抜き（エンジン停止）によるアイドリングストップを、1997年から全車両で実施しています。配達・集荷でドライバーが車から離れる際や、お荷物の積み降ろし作業中は、キーを抜きエンジンを停止させています。

このアイドリングストップにより燃料消費を防ぎ、CO₂やNOx※1、PM※2などを含む排出ガスの抑制を実現しています。1日に2時間のアイドリングストップを全車両で実施した場合、1年間（300日換算）で約3万トンのCO₂排出を抑制し、約13.7億円の燃料費を抑制することになります。

※1 Nitrogen Oxide:窒素酸化物（光化学スモッグや酸性雨などを引き起こす大気汚染原因物質とされる）

※2 Particulate Matter:粒子状物質（ぜんそくや気管支炎を起こすとされる）



キーチェーンを装着しています

■エコ安全ドライブ 7ヶ条

エコ安全ドライブで特に重要とされる「ふんわりアクセル『eスタート』の実践」「シフトアップは早めに操作」、「交通状況に応じた、定速走行での運行」、「十分な車間距離の確保」、「早めのアクセルオフでエンジブレーキの活用」、「駐車時は、キー抜き（エンジン停止）の励行」、「日常の点検・整備と空気圧管理」の7項目に絞り、「エコ安全ドライブ7ヶ条」と定めています。これらを社員手帳に掲載し啓発しています。

また、「エコ安全ドライブ 7ヶ条実践マニュアルビデオ」を活用し、運転者に指導することで、従業員に浸透させています。



啓発ポスター

研修施設

佐川急便では、ハンドルを握るドライバーの徹底した育成・指導を実施するため、宮城・神奈川・愛知・香川の国内4カ所に、運転教習ができるコースを備えた研修施設を保有しています。運転指導時は、見通しの悪い交差点など住宅地を模したコースの条件によって、公道での安全運転に役立つ実践的な指導を行っています。



佐川急便豊橋研修センター



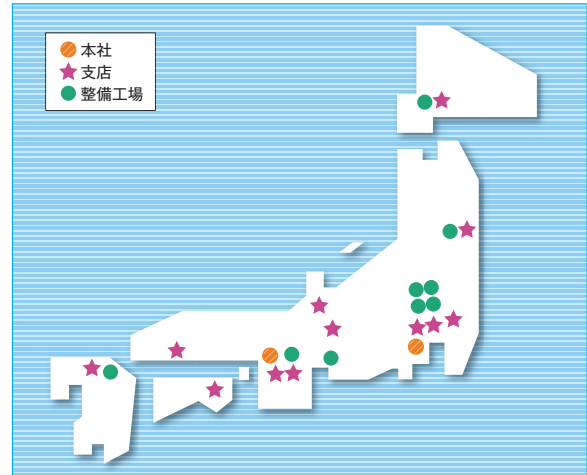
車両整備、安全機器の装備による安全への取り組み

徹底した車両整備により交通事故を防止

SGホールディングスグループが保有するすべての営業車両の整備を担う SGモーターズ(株)では車両の整備を徹底することで、整備不良が原因の事故撲滅に取り組んでいます。また、十分な点検整備により環境負荷も低減できます。

ドライバーが行う日常点検、定期点検年間計画に基づく3カ月点検および、12カ月点検など、標準化した点検整備を確実に実施しています。また、メーカーリコールの改修状況を適切に進捗管理し、2万6千台を超える車両の安全運行を支えています。

◎SGモーターズ車両整備ネットワーク



交通事故の未然防止にドライブレコーダーを導入

安全運転は、ドライバーの運転技術向上だけでなく一人ひとりの心がけが大切です。佐川急便では、効果的な安全指導を行うため、ドライブレコーダー(安全運転記録装置)を導入しています。ドライブレコーダーによる客観的な運転診断により、ドライバーの運転特性の把握が容易になりました。特に模範的な運転をするドライバーを正しく評価できるようになりました。

装備したドライブレコーダーは、運転操作の5項目を点数で評価します。これにより日頃の運転行動や課題の把握と、それらを克服させる指導が可能となります。点数で評価することで、ドライバーは高得点を目指し、積極的に安全運転に取り組むようになりました。また、ドライブレコーダーのメーカーと協力し、機能の改善も図りました。診断結果はこれまで営業店単位となっていましたが、本社、支社でも診断結果の確認を可能としました。

■ヒヤリ・ハット体験を安全教育に有効活用

みなさん、運転中に「ヒヤリ、ハッ」とした経験はありますか?佐川急便では、ドライブレコーダーに記録されたさまざまな映像を教育資料として活用しています。危険に感じる映像を営業店で放映するだけでなく、各研修や小グループでのディスカッションの教材として活用し、安全運転にかかわるリスクの理解を深めています。



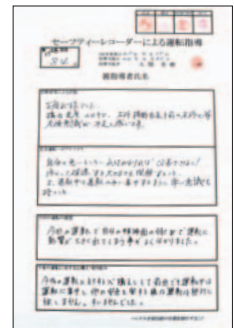
添乗指導



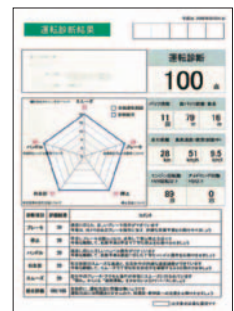
ドライブレコーダーの活用



ドライブレコーダーによるヒヤリハット映像



ドライブレコーダーによる運転指導書



運転診断結果

幹線輸送の安全確保

佐川急便では幹線輸送について、協力会社を含むドライバーの安全意識の高揚を図るための取り組みを行っています。

■ 幹線輸送全国一斉安全パトロール

「佐川急便幹線輸送全国一斉安全パトロール」は主要高速道路のサービスエリア、パーキングエリアを中心に、幹線輸送に携わるドライバーへ中間点呼を実施。心身のリフレッシュと、車両の点検整備により、交通事故と車両故障を未然に防止する施策で、1994年より春・秋と年2回行っています。

春は2008年4月11日から12日にかけて行われ、全国高速道路の主要サービスエリア、パーキングエリアと一部営業店を含む43カ所で行いました。佐川急便および、幹線輸送を担う協力会社の運行管理者、整備管理者などの協力を得て、計829名の管理者がドライバーの健康状態や車両を確認し安全運行を呼びかけました。

また、日頃の感謝の想いを込め、環境保全の一環となる開催地の清掃活動も行いました。



パトロールのようす



安全パトロールポスター

◎ 幹線輸送全国一斉安全パトロール実績 (2008年度)

実施日	点検総台数	不具合台数	点検スタッフ
2008年4月11日～12日	3,480	25	829
2008年9月5日～6日	3,314	17	858

■ 幹線輸送全国一斉ターミナル点検

2008年6月30日と12月1日、幹線輸送時の交通事故と車両故障の未然防止による輸送品質の維持・向上を目的に「佐川急便幹線輸送全国一斉ターミナル点検」を実施しました。佐川急便の全拠点で、店長をはじめとする管理者と協力会社の管理者が、車両をチェック。出発前の日常点検に協力しました。



点検のようす



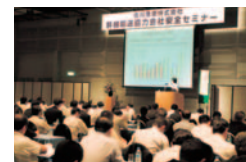
ターミナル点検ポスター

◎ 幹線輸送全国一斉ターミナル点検実績 (2008年度)

実施日	点検総台数	不具合件数
2008年6月30日	5,555	83
2008年12月1日	5,633	43

■ 幹線輸送協力会社 安全セミナーの開催

2008年7月7日、幹線輸送協力会社の経営者を招き、「幹線輸送における安全対策について」と題して安全セミナーを開催しました。国土交通省、芝浦工業大学より講師を招き、講演を賜りました。参加した290社307人の経営者は安全対策の取り組みを学ぶとともに、意見交換を行いました。



セミナーのようす

最新鋭自動車整備工場オープン!

SGホールディングスグループで車両整備事業を担うSGモータース(株)は、札幌市と高松市の整備工場を移転・拡張し、2008年12月21日に札幌店を、2009年1月21日に高松店をオープンしました。

両施設とも「安全」「環境」「効率」をコンセプトに設計されており、延床面積は旧工場の約3倍に拡大しました。



札幌店外観



高松店外観

工場長の声

お客さまからの信頼、信用は「美化」から。

社員全員で心掛けていることは、お客さまから見られた時に綺麗な工場といわれ続けられるようにすること。美化を維持しお客さまから信頼、信用される工場として札幌店社員全員で頑張っています。



SGモータース(株)
札幌店 工場長 石野 仁

環境にやさしい工場を目指して。

高松店では雨水を貯めて浄化し、その水を車両の下廻り洗車やトイレの排水に利用しています。また、工場から排出される汚水も生物によって分解される化学処理装置を設置し、きれいな水にしてから排出するようにしています。環境にやさしい工場を目指し取り組んでいきます。



SGモータース(株)
高松店 工場長 龍 昌志

子どもたちの笑顔を守る「さがわきゅうびん交通安全教室」

「未来ある子どもたちを悲惨な事故から守りたい」2003年から、全国で、「さがわきゅうびん交通安全教室」を開催し、交通安全の教育に協力しています。園児から小学校低学年児童を対象とした交通安全教室では、子どもたちに交通ルールを守ることの大切さを伝えています。横断歩道の渡り方や信号機・標識の意味など、基本的な交通ルールに加え、実際にトラックを使用して死角の体験をするなどの工夫をしています。2008年度（2008年3月21日～2009年3月20日）は全国で789回実施し、113,243名の子どもたちが参加しました。

交通安全教室は、子どもの視線に立った丁寧な指導を心掛けており、教育機関やPTA、警察関係者からも高い評価をいただいています。

また、日頃ハンドルを握っているドライバーも積極的に参加し、子どもたちとのふれあいを通して、安全に対する意識を再確認しています。2008年度は、2,166名のドライバーが参加し、行動をともにする子どもたちから多くのことを学びました。



交通安全教室のようす

■子どもたちのメッセージ

交通安全教室を開催した幼稚園や小学校からメッセージをいただくことがあります。それは、やさしくて可愛い絵や「おしえてくれてありがとう」などのメッセージです。それを受取った社員の安全意識が更に高まることはいうまでもありません。安全に対する責任の重さを感じるのでした。



かわいいメッセージをたくさんいただきました

◎さがわきゅうびん交通安全教室 開催実績（2008年度：平成20年3月21日～平成21年3月20日）

	幼稚園・保育園	小学校	中学校	高等学校	その他	合計
交通安全教室 実施回数	495	212	19	3	60	789

高齢者を対象にした交通安全教室

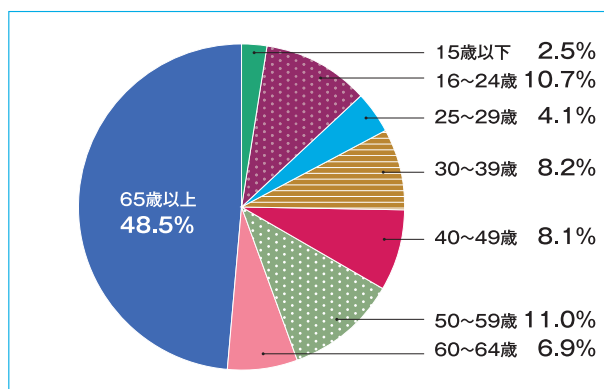
警察庁の発表によると、2008年の交通事故による死者5,155名のうち、65歳以上の高齢者の占める割合が半数近い48.5%という結果が出ています。他の年齢層が減少傾向にある中、高齢者の死亡数は1975年以降増加傾向が続いています。

佐川急便では、幼児・小学生に対する交通安全教室に加えて高齢者を対象にした交通安全教室も各地で開催しています。



高齢者を対象にした交通安全教室

◎2008年中年齢層別死者の状況(構成率)



出典:警察庁

交通安全教室 ～担当者の声～

子どもに教え、子どもからも学ぶ、安全教室

「今日は保育園に大きなトラックがきたよ。トラックの周りは危なくてケガしちゃうから近寄っちゃダメだって!だからママも危ないから近くに行かないでね。ケガしちゃうよ」

先日、保育園で交通安全教室を開催した父兄と話をすることがあり、こんな話を聞きました。園児が安全教室で教わったことを家族に伝えてくれたことをとても嬉しく思いました。また、それにも増して安全教室を通じて子どもたちが命の大切さとい

うものを感じ、自分だけでなく家族のことも想う姿勢を持ってくれたということに大変感激しました。

日々、運送の仕事に携わる私自身も、もう一度初心に帰り、命の大切さ・安全というものについて考え直す良い機会になったと思っています。これからもこの気持ちを忘れずに誇りを持って仕事に邁進していきます。

佐川急便(株) 山梨店 安全推進課 従業員

交通安全教室 ～幼稚園の先生の声～

子どもたちの安全を守るために

前に勤めていた幼稚園でも交通安全教室をしていましたが、他社の方々をお願いしていました。こちらに赴任して初めて佐川急便さんがこのような取り組みをやっていることを知りました。赴任後、初めて佐川急便さんに交通安全教室をお願いした際、打ち合わせ時に非常に細かなスケジュールとカリキュラムを見せていただいた時には驚きました。交通安全教室に対してここまで注力されているとは正直思っていませんでした。また、実際に

見てさらに驚きました。小さな子どもには、言葉で説明してもなかなかうまく伝わらないことが多く、そのことを十分に理解されていて、実車を使った実演や園児に体験させ、見て・聞いて・やらせてみて理解させる、という内容に感動すら覚えました。この幼稚園では毎年佐川急便さんに交通安全教室の開催をお願いしているという理由が理解できました。今後も子どもたちの安全のために、この取り組みをもっと推進していただければと思います。



交通安全教室の実施風景

安全のための営業店の取り組み

佐川急便では安全にかかわる表彰制度のひとつとして、営業店を対象に連続無事故表彰制度を設けています。連続無事故とは、車両の保有台数に無事故日数を乗じて算出するもので、営業店の全社員が一致団結して安全運転に取り組んだ結果を評価するものです。そのような中、2009年1月20日、関東支社三多摩店が連続無事故50,000日を達成しました。

三多摩店では毎月1回、各班で無事故に対する意気込みを表すポスター作成を独自に展開。実際に事故を起こしてしまうとどのような影響が自分や家族に及ぶのかなど、ポスターづくりを通して「絶対に事故、違反はできない」という意識を高めています。また全員で取り組むことで、強い連帯感が生まれ連続無事故の継続につながっています。



◎年間無事故店 58店

佐川急便	
支社	店名
九州	南福岡店、大牟田店、五島店、出水店、南さつま店、大島店、名護店、日向店
中国・四国	今治店、須崎店、安芸店、高梁店、山陽店、三原店、浜田店、山口店、中国路線営業所
関西	明石店、御所店、西日本ハブセンター路線営業所、峰山店
中部	黒部店、尾鷲店、伊勢店、伊豆店、中部路線営業所
関東	飯田店
東北	須賀川店、北上店、釜石店、下北店、五所川原店、東北路線営業所、大曲路線営業所、青森路線営業所、八戸路線営業所
北海道	倶知安店、旭川店、名寄店、深川店、中標津店、北見店、紋別店、稚内店、静内店、岩見沢店

佐川グローバルロジスティクス

羽田営業所、仙台営業所、千歳営業所、名古屋営業所、長崎営業所

佐川引越センター

東北支店、東京支店、三多摩支店、横浜支店、名古屋支店、福岡支店、神戸支店

条件 ①平成20年3月21日～平成21年3月20日の年間無事故達成店所。事故定義は、連続無事故表彰基準に準ずる
 <連続無事故表彰基準>
 ・非計上事故を含む全事故を対象とするが、以下の事故は除く
 ・自店構内で発生した自社車両同士(自店施設含む)の事故でその被害総額が1万円以下の事故
 ・マイカー、フォークリフト、台車による事故は、重大人身事故が発生した場合のみ計上する

国土交通省の運輸安全マネジメント評価

2008年10月20日、21日に国土交通省による運輸安全マネジメント評価が実施されました。評価の結果、「①安全重点施策の達成状況の把握、検証とこれを踏まえた見直しの実施。②事故等の情報の積極的な収集、分類・整理および評価・分析並びに事故再発防止策の実施。③重大事故を想定した対応訓練の実施と結果にもとづく

事故報告体制の検証。④現場の技術要員に対する教育・訓練の見直しを踏まえた実施体制の充実。」などの点について、高い評価をいただきました。

今後も、全社的な安全意識の向上を目指し、取り組みを推進していきます。

「安全性優良事業所」の認定取得

佐川急便(株)と佐川グローバルロジスティクス(株)、佐川引越センター(株)は、328の事業所(2009年3月20日時点)において全国貨物自動車運送適正化事業実施機関から「安全性優良事業所」の認定をいただいています。この認定は、利用者がより安全性の高い企業を選べること、また、運輸業界全体の安全に対する意識向上を目的とした

もので、今後も、高い評価をいただけるよう取り組んでまいります。

安全性優良事業所の認定ロゴマーク



環境への取り組み

環境

保護のために
知恵をしぼる。
社会と連携する。
美しい空を追い求めていきます。

澄んだ空、美しい地球をずっといつまでも。日本中を走るトラックが向かう先は、大気汚染や地球温暖化から守られたやさしい未来です。
人類共通の課題である環境保護へ、ハード（物的対応）とソフト（教育・啓発）の両面から企業グループの総力を挙げて取り組んでいきます。

環境保全に独創的なアイデアで立ち向かう



お客さまと二人三脚 CO₂削減へひた走るサービス

地球温暖化への影響をいかに抑えるか、それはSGホールディングスグループにとって最も取り組むべき課題。一人ひとりの環境意識はもとより、お客さまとも力をあわせて取り組んでいけるよう、価値あるサービスの創造に努めます。



「CO₂削減のために貢献したいけど、何をすればよいのか…。佐川さんのサービスを通じて、貢献できることを考えて欲しい」。毎年開催されるSAGAWAステークホルダー・ダイアログで多くの方からそのようなご意見をいただきました。また、お客さまの中でも、同様の意見を持つ方が30～40代の主婦を中心に多くいらっしゃるということで、消費者の方が参加できる仕組みを作ったのです。



三井住友銀行さまより購入したCO₂排出権10,000tの購入を示す記念の盾

エコのために、という考えは社会の機運として高まる一方。それはSGホールディングスグループにとっても、CSRの視点から重点的に取り組むべきテーマであるには違いありません。そこで、宅配便もエコに送る。お荷物1個当たりの輸送にかかるCO₂排出量相当(346g)の排出権を、お客さまと佐川急便がお互い自動的に寄付できるようにしたのです。お客さまにも参加していただけるエコとして、その成果は95トン分(2009年4月20日現在)のCO₂削減に相当しています。温室効果ガス「マイナス6%」に貢献できる業界初のサービスとして、これからますます期待が高まっていくと考えます。



そして、もうひとつは「宅配便エコポイント」を活用したecoキャンペーン。再配達にかかる環境負荷を減らそう、という取り組みを通じて、配達回数とともに余分なCO₂排出も抑えることができました。お客さまの参加と協力で作る環境物流へ。そのチャレンジは、まだ始まったばかりです。



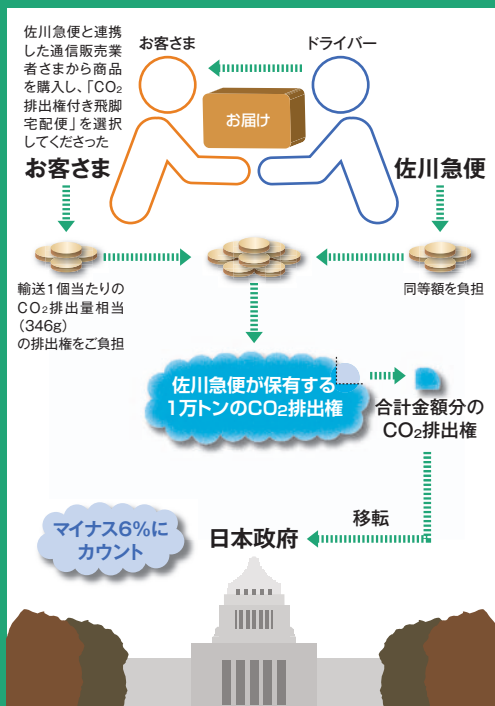
お荷物1個で 346g の削減に！

「CO₂排出権付き飛脚宅配便」

このサービスは、通信販売で商品を購入されるお客さまが宅配便を利用する際に、「CO₂排出権付き飛脚宅配便」を選択されるお客さまにCO₂排出権購入費の一部をご負担していただき、その同等額を佐川急便と通信販売事業者が負担します。その合計額分を佐川急便が保有するCO₂の排出権から、日本の温室効果ガス「マイナス6%」へ移転するものです。

これは、京都議定書で日本が定められた「マイナス6%」の削減義務に対して、国民運動として一般消費者の立場からの貢献を少しでも促すためのものであり、一般消費者、通信販売事業者、物流事業者が連携協力する仕組みです。日本の削減義務に対して、一般消費者がどのように貢献すればよいかかわからない、との声を受けてできあがったサービスでもあります。

■サービスの仕組み



排出権って、どんなものなの？

排出権は、国やその用途によりさまざまな差異があります。そのうちのひとつとして国連が承認したCDM(クリーン開発メカニズム)プロジェクトの成果により、発行される排出削減量があります。当事者国は先進国と途上国双方で、先進国は技術移転や資金供与を行い、途上国は技術推進と雇用確保が生み出されます。その成果として「排出権」が先進国にクレジットされるという仕組みです。

「ベルメゾンネット」導入1カ月で11,000個突破！



株式会社千趣会(本社:大阪市北区)さまでは、2008年9月1日より同社のオンラインショッピングサイト「ベルメゾンネット」の配送サービスに「CO₂排出権付き飛脚宅配便」を導入しています。スタートからわずか1カ月で、CO₂排出権付きの指定便で配送した個数が11,773個。これは、CO₂排出権約11トン分に相当します。

「『eco(いいこ)とあるよ・・・』 1回目!1回で受け取ることがecoなんですキャンペーン」

政府が推進する国民運動である「1人、1日、1kgCO₂削減応援キャンペーン」の協賛企業として、再配達にかかる環境負荷を減らすための取り組みとして、2007年11月21日より2009年3月20日まで実施しました。1回の配達でお荷物を受け取っていただくことで、不在再配達が発生せず、余分なCO₂排出抑制につながるというものです。

この活動にご理解いただいてキャンペーンに参加されたお客さまには、初回配達で3ポイント、再配達で1ポイントを貯めて、景品と交換させていただきました。キャンペーンの成果としては、参加のべ人数1,848名、再配達削減個数3,696個。実に639kgのCO₂が削減できたことになり、これはサッカーボール約63,900個分の体積に相当します。

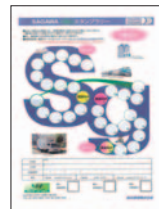
今後も、お客さま参加型のサービスを通じて、環境活動の輪を広げていきたいと考えています。

■キャンペーンの流れ

①事前にカードを入手



私のチャレンジ宣言カード
<http://www.team-6.jp/>



スタンプラリーカード
<http://www.sagawa-exp.co.jp/>

②配達時にカードを提示

初回配達時：3ポイント
2回目：1ポイント



ポイント貯めて
いいことあった！



地域との連携でつくる自然ゆたかな未来

よく学び、よく遊び 健やかな里山へと再生

環境負荷の軽減とともに、もうひとつ環境対策に必要なこと。それは、健全な生態系を維持・回復し、恩恵を享受すること。つまり、人と自然の「共生」。双方への取り組みを推進させてこそ、SGホールディングスグループは持続的な発展に寄与できると考えています。

四国は高知県と徳島県、東京都は八王子市。SGホールディングスグループは、そこに合計約750ヘクタールの森を保有しています。意外、と思われた方も多いのではないのでしょうか。高知県の「さがわの森」では、佐川林業による森林管理を適切に行いながら、森林保全に関する環境研修を実施。自然と身近にふれあう場を設けています。



子どもたちの環境学習

特に八王子 高尾の森は、市民が共有できる財産となるよう保全活動を行っているのももちろんですが、それだけではありません。CO₂吸収量や動植物などの自然資源の調査をはじめ、脱温暖化への先進的な技術を導入したり、市民の方々やNPO法人、大学並びに行政による協働を図ったりしています。森林活用の新しいモデルとして、ユニークな管理体制と可能性を追求しながら里山再生に取り組んでいるのです。2007年度より始まった、この「高尾100年の森」プロジェクト。いつか健康な里山になる日を夢見て、必要な森林管理計画や実習、ふれあいイベントなどを重ねながら、一步一步着実に前進しています。

ゆたかな地球環境を残し、次代に伝えていくためにも「高尾100年の森」を中心に、多様な環境資源をもっともっと有効活用していきたい。それが、グループの価値を高めるとともに、独自性のあるCSR経営として果たすべき約束だと強く思っています。



間伐体験

目指そう、森づくりの世界モデル これが「高尾100年の森」プロジェクト

計画の舞台は、東側に関東平野を望む標高200~500mの面積約100ヘクタールの丘陵地。通称「裏高尾」とも呼ばれています。明治の森・高尾国定公園の主峰・高尾山の北東約4kmと近接していて、古くから薪炭林や人工林に覆われ、いわゆる里山として人々の生活の場に活用されてきました。

調査

持続的な森林管理計画を策定するにあたって、森林資源の調査をはじめ、トウキョウサンショウウオや雑木林の育成のシンボルとなるイチリンソウなど、貴重種を主体とした動植物の調査を実施しました。

管理区の決定

森林材積の持続性の保持や炭素固定機能の維持・向上、生物多様性保全の観点から、森林形態を次のタイプに分けてゾーニングし、森林管理区としました。

- ①スギ・ヒノキ人工林
- ②竹林
- ③コナラ、クヌギの雑木林
- ④シイカシの自然植生に遷移させる林
- ⑤イチリンソウなど春植物を含む沢沿林
- ⑥潜在自然植生が残存する稜線部風衝林など



プロジェクトの活動を記念した碑

事業内容

森林内では保全・修復・利用を行う、癒しを活用する、2つの事業が行われています。

<p>森林を 保全・修復・利用する 事業 (森林空間を利用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林の保全 (花粉症防除を含む森林管理のための下草刈り、枝打ち、間伐、歩行道の整備など) ● 森林の利用 (木材ペレット等バイオマス利用、介護老人のための森林浴ボランティア、国立公園サプレんジャー・自然教育リーダー・プレーパークリーダーなどの育成の場など) ● 自然学校的な活動 (トレッキング、キャンプ、子ども向け環境教育など)
<p>森林空間の 癒し効果を 活用する事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● (拠点施設や周辺施設を利用した) 企業研修 ● (拠点施設や周辺施設を利用した) 若者向け技能資格研修 ● (拠点施設や周辺施設を利用した) アロマセラピー資格研修、森林セラピスト資格研修、その他の資格研修その他大学生の労働機会を増やすための、あるいは、ニート層の社会復帰を支援するためのカリキュラム、学校・予備校の補講など ● (拠点施設や周辺施設を利用した) 木工・陶芸、音楽会等の文化教室

森づくりに新風を吹き込む3つのコンセプト

1. 脱温暖化に持続的な保全・活用

ロボットや遠隔操作技術などの新技術を導入した森林の保全整備をすすめるとともに、バイオマス利用など先進的な脱温暖化技術の導入を図る。

2. 次代を担う若者の育成

森林保全活用の実学を「大学の単位」や「資格の取得」にしたり、企業における「従業員研修の場」にして、若者が積極的にかかわる機会をつくる。

3. 企業・市民・行政による体制

荒れた山野などを産官学民協働で修復保全するという、イギリスではじまった「シビル・トラスト(グラウンドワーク)」方式を採用し、森林自然環境保全を実現する。

先駆的な取り組みに大いに期待



環境省でも、里山の利活用を応援する制度整備の検討に着手したと聞きます。そんな中、本プロジェクトはたいへん先駆的であり、環境リーディングカンパニーとしても面目躍如であると注目しています。

財団法人 水と緑の感星保全機構
岩本 彩哉 様



環境活動の考え方／地球温暖化防止への取り組み

環境理念と環境方針

環境理念

佐川急便は「良き企業市民」として自主的で継続的な環境保全の為の基本方針を定め、社会と自然との共生を図りつつ、地球規模の環境問題に取り組み、地域社会の発展に貢献します。

環境方針

- 1 排出ガスによる地球温暖化、大気汚染を防止するため、輸送の効率化、低公害車の導入、エコドライブの実践を推進し、環境保全のための継続的な改善を図ります。
- 2 省資源・省エネルギー・3Rを推進し、循環型社会構築のために、その取り組みに対する改善、企画、提案をします。
- 3 環境関連法規制、条例、協定及びその他の要求事項を順守し、環境負荷の低減、環境汚染の防止に努めます。
- 4 環境教育、啓発活動を通じて全従業員に本方針を周知し、環境活動を推進します。
さらに広く一般に本方針並びに当社の環境活動に関する情報を提供します。
- 5 環境目的、環境目標を定め、定期的に見直すことにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。

クライメート・セイバーズ・プログラムへの参加

「クライメート・セイバーズ・プログラム」とは、世界最大の民間自然保護団体であるWWF（世界自然保護基金）の活動で、先進的な環境対策を進めている世界の企業が温室効果ガスの削減を目指すために参加するプログラムです。プログラムの最大の特徴は、WWFとの対話を通じて削減目標を設定することと、第三者機関による検証が行われることです。これにより、企業は取り組みに透明性と信頼性を得ることができます。

このプログラムに参加するための条件として、現状の計画を上回る削減目標を設定することと、原則として生産量や売上高あたりの排出量である原単位で定めるのではなく、絶対量（総排出量）で目標を設定することが定められています。リーダーシップを期待される、たいへんレベルの高いプログラムであるといえます。

2009年5月現在、全世界で21社がこの取り組みに参加しており、佐川急便は日本企業においては第一号、物流企業としては世界で唯一参加しています。



2009クライメート・セイバーズ サミットの様子



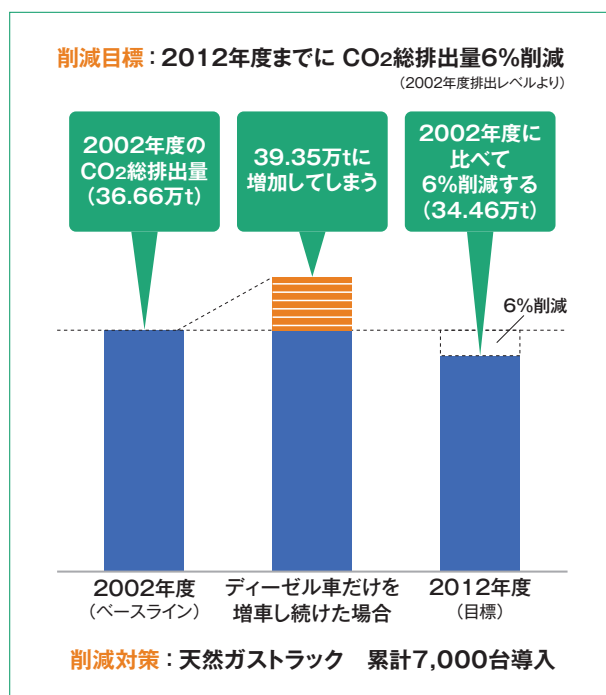
■佐川急便の目標

佐川急便は、2003年5月にクライメート・セイバーズ・プログラムに調印し、WWFと協働した取り組みを開始しました。佐川急便が掲げた目標は、2012年度までにCO₂総排出量を2002年度比で6%削減するというものです。

仮に、2012年度まで業績が拡大を続け、同時に環境対策を実施しなかった場合、CO₂の排出量は2002年度の約36万トンから約39万トンにまで増加してしまいます。そこで、2012年度のCO₂総排出量を6%削減の約34万トンにするために、天然ガストラックを7,000台導入する計画を立てました。目標は6%の削減ですが、業績拡大による増加量を考慮すると、実質約14%の削減が必要となる見込みです。

また、この目標値は事業活動で使用する燃料や電力の使用量を基準に、会社全体で排出しているCO₂の総排出量である絶対量で策定しています。

◎削減目標と対策



進捗状況

佐川急便では、2002年度のCO₂総排出量を基準とし、2003年度から2008年度までの6年間に、天然ガストラックの導入をはじめとした、さまざまな取り組みを行ってきました。

◎佐川急便全体のCO₂排出量推移

(単位：t-CO₂)

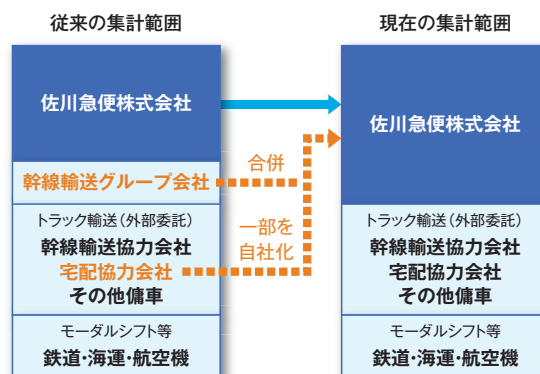
	軽油	ガソリン (ハイオク、バイオガソリンを含む)	天然ガス	電力	合計
2002年度	244,552	18,780	5,810	97,477	366,619
2003年度	235,154	17,153	9,660	97,654	359,621
2004年度	221,886	19,474	14,658	101,459	357,477
2005年度	217,648	20,741	18,916	97,927	355,232
2006年度	207,515	25,893	24,300	98,407	356,116
2007年度	238,886	30,808	28,261	101,307	399,262
2008年度	236,158	40,028	32,010	98,653	406,849
増減 (08-02年)	▲8,394	21,248	26,200	1,176	40,230
対比 (08-02年)	96.57%	213.14%	550.95%	101.21%	110.97%

※クライメート・セイバーズ・プログラムの取り組みを開始した2002年度を基準(ベースライン)としています。
 ※集計の範囲:2002年度ベースライン算出の集計範囲は、佐川急便施設内に併設するグループ会社や外部テナント分の電力、燃料外販分を含みます。なお、2004年度以降は、当該プログラムに取り組んでいる佐川急便(株)の事業活動のみを対象として集計しています。ベースラインとの比較のため、佐川急便施設内に併設するグループ会社や外部テナント分の電力、燃料外販分に相当するCO₂排出量(10,435t-CO₂)を加算しています。
 ※集計の基準:「クライメート・セイバーズに係る覚書」および「環境会計マニュアル2008年度版」
 ※CO₂排出係数:環境省2002年12月19日発表「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」に基づくCO₂排出係数
 ※燃料は購入量より集計していますが、一部は自社集計による給油量データを採用しているものがあります。

2005年度までは、順調に取り組みの効果が表れておりましたが、2006年度以降は、外部委託をしていた宅配業務の一部と、幹線輸送を担うグループ会社を佐川急便に取り込んだことにより、CO₂総排出量が増加しています。

◎CO₂排出量増加の理由

従来は外部委託をしていた幹線輸送業務および、宅配業務の一部を佐川急便(株)に取り込んだことにより、集計範囲に含めていなかった部分が、佐川急便の排出分となったことが大きく影響しています。



■クライメート・セイバーズ・プログラムの集計範囲

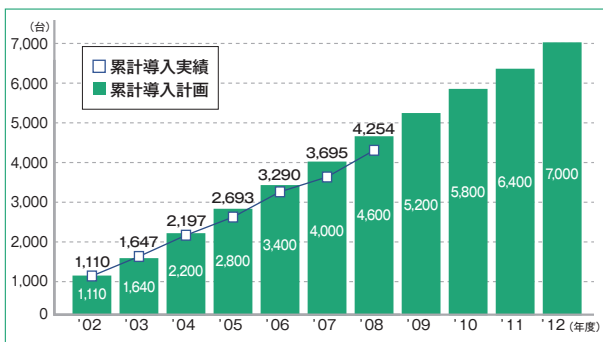
天然ガストラックの導入計画と実績

佐川急便では、2009年3月現在で累計4,254台の天然ガストラックを導入しました。これは日本国内の天然ガストラック普及台数の約25%にあたり、民間企業では最も多い台数となります。今後も積極的に天然ガストラックの導入を進めていきます。



天然ガストラック

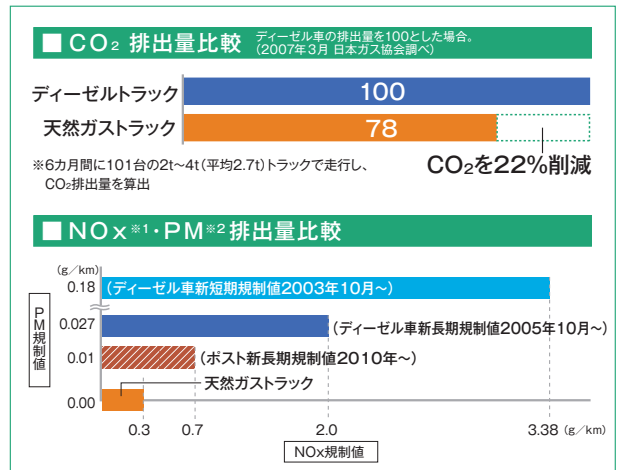
◎導入計画と実績 (2009年3月現在)



環境にやさしい天然ガストラック

天然ガストラックは、天然ガス(都市ガス)を燃料としており、一般的なディーゼル車と比べて、CO₂やNOx^{※1}の排出量が少なく、PM^{※2}は全く排出しません。

◎排出ガスの性状性能(ディーゼル車と天然ガストラックの比較)



※1 Nitrogen Oxide:窒素酸化物(光化学スモッグや酸性雨などを引き起こす大気汚染原因物質とされる)
 ※2 Particulate Matter:粒子状物質(ぜんそくや気管支炎を起こすとされる)

天然ガス充填スタンドの整備

天然ガストラックの導入を促進するため、佐川急便では2008年度16カ所の営業店に自家用天然ガス充填スタンドを設置しました。これにより、全国の自家用天然ガス充填スタンドは23カ所となります。



自家用天然ガス充填スタンド(城西店) 天然ガストラックに充填するようす

バイオ燃料の活用

天然ガストラックの燃料として、集配車両から排出されるCO₂の削減を目的に、バイオガスを利用しています。

バイオガスは下水処理の過程で発生する消化ガス[※]を有効利用しており、バイオガソリンは、ガソリンに植物を原料とするバイオエタノールを配合した燃料で、いずれもCO₂削減につながる次世代燃料として注目されています。

現在、神戸市で下水処理施設の汚泥から発生した消化ガスを精製したバイオガスを神戸店のトラック10台に使用しています。

また、軽貨物自動車についてもバイオガソリンの活用を始めており、関東・関西エリアを中心に販売されているバイオガソリンの使用も行っていきます。

今後も、バイオ燃料の普及にあわせて、積極的に利用していきます。

※下水処理過程で発生するガスでメタンガスを多く含む



バイオガスステーション



輸送の効率化による環境対策

「サービスセンター」による環境負荷低減

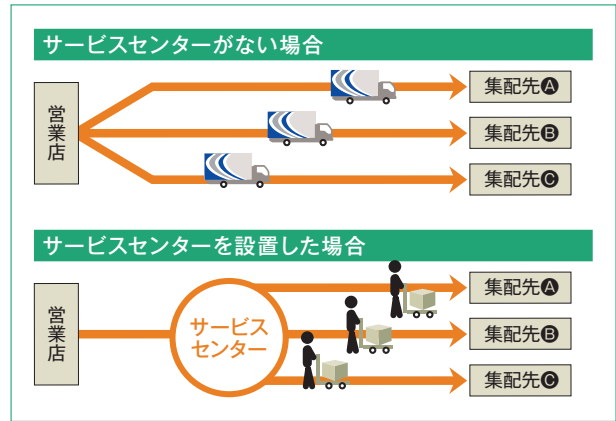
佐川急便では、交通量が多く駐車スペースが少ない都市部を中心に、配送車両を使用しない「サービスセンター」を設置しています。

トラックが環境に与える影響は小さくはなく、特に人口が集中する都市部では環境負荷も集中しがちです。サービスセンターを設置することにより、台車や自転車を用いた人力での集荷・配達を行い、環境に負荷を与えない配送を実現しています。

また、都市部では多くの運送事業者が集中するため、配送車両の駐車が交通渋滞の一因となっています。サービスセンターを使用することで、交通渋滞の緩和にも貢献しています。その他、車両を使用しないことから車の運転に自信がない人でも十分に活躍できる職場として、現在では女性社員も大活躍しています。

2009年3月現在、全国都市部を中心に221カ所を設置しており、約1,100台相当の増車を抑制しました。サービスセンターは、人にも環境にも社会にもやさしい配送の拠点として、これからも積極的に展開していきます。

◎サービスセンターフロー図



サービスセンターと配達の様子



三輪自転車での配達の様子

「ハブセンター」による輸送の効率化

輸送を支えるネットワークづくりの一環として、大規模なお荷物の集約施設である「ハブセンター」を設置して、輸送の効率化を推進しています。

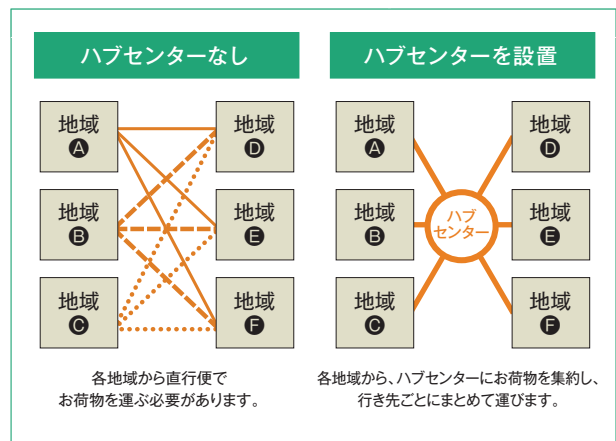
ハブセンターに集められたお荷物は、行き先ごとに仕分けされることで積載率が向上し、トラック使用便数の抑制を実現。これにより、トラックの排出ガスを大幅に削減でき、大気汚染物質やCO₂の排出抑制につながっています。

現在では、国内に5カ所設置しており、さらなる車両運行の効率化と積載率の向上による環境負荷低減を目指しています。



ハブセンターに集結する配達先別のトラック

◎ハブセンター利用による輸送フロー図



西日本ハブセンター



中部ハブセンター



久喜センター



Tokyoビッグベイ



北九州センター

CO₂削減につながる「佐川流通センター」の活用

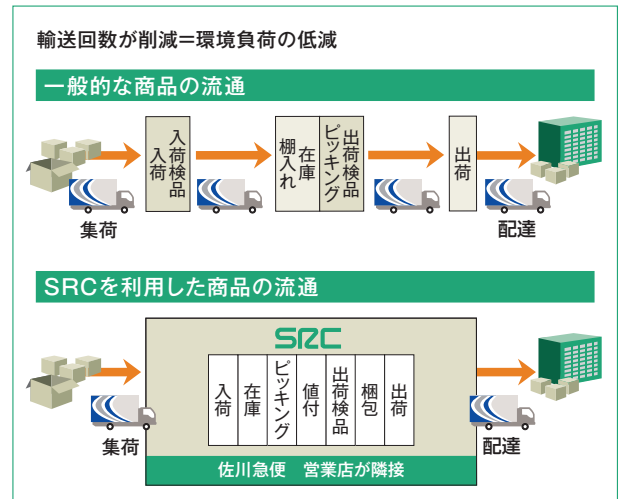
一般的な商品の流通は、工場で作られ出荷するまでに多くの工程がありますが、佐川グローバルロジスティクスが運営・管理する「佐川流通センター（SRC）」では、お客さまの商品を入荷～一時保管～検品～値付する物流加工から出荷までをトータルにサポートしています。

一元管理による徹底した合理化を進めると同時に、お客さまはSRCをご利用いただくことで、物流にかかわる手間の簡略化とコスト削減が可能となります。

環境面においても作業工程ごとの無駄な輸送を削減できることから、環境負荷の低減につながっています。

2009年3月現在、26カ所のSRCと29カ所の営業所を活用して、お客さまの物流の合理化とCO₂排出量削減に貢献しています。

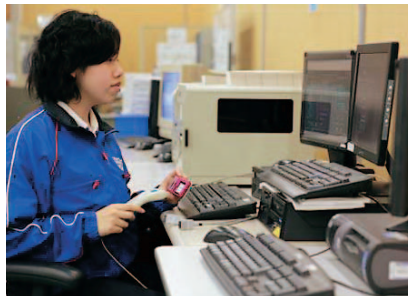
◎SRCでの輸送フロー図



SRC内では業務上発生する廃棄物の分別回収を徹底し、リサイクルの推進はもちろんのこと、エコ材を使用した梱包資材の提案など、お客さまとともに地球環境の保全に積極的に取り組んでいます。



SRC外観



商品管理

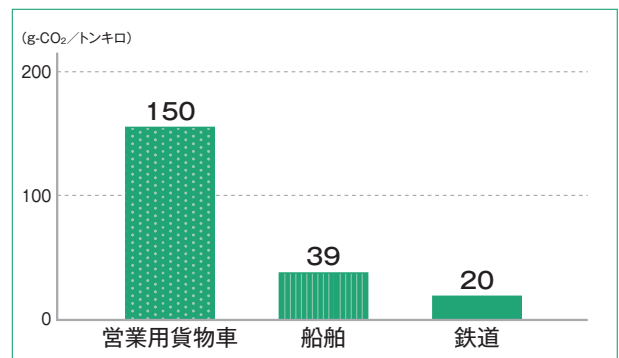


在庫管理

「モーダルシフト」のCO₂削減効果

モーダルシフトとは、環境負荷の小さい鉄道・海運利用へと、貨物の輸送手段を転換することをいいます。例えば、1トンの貨物を1km運ぶときに排出するCO₂の量を比べると、鉄道はトラックの1/8、海運は1/4といわれています。これは、一度に大量のお荷物を輸送することで輸送効率を高め、エネルギー消費を低減しているためです。

◎輸送機関別CO₂排出原単位



出典:国土交通省ホームページ(2006年度)

「スーパーレールカーゴ」によるモーダルシフトの推進

佐川急便では、輸送をトラックのみに頼るのではなく、環境負荷の小さい鉄道や船舶などへ輸送手段を切り替え、複合的に組み合わせて輸送するモーダルシフトを推進しています。

このスーパーレールカーゴは、国土交通省の実証実験から誕生したもので、日本貨物鉄道株式会社と共同開発し、佐川急便が全編成を借り切って宅配便輸送に使用しています。日本の大動脈であり、交通量が最も多く、環境負荷の大きい東京―大阪間の輸送にあたっては、スーパーレールカーゴを利用することで、輸送量の約10%をまかなっています。毎日深夜に16両編成(31フィートコンテナを28個搭載)の列車を東京―大阪間で上り下り各1本運行しており、東京―大阪間を約6時間で結び、積載量は往復で10トントラック56台分に相当します。

このスーパーレールカーゴの活用により、大型トラックによるCO₂排出量を大幅に削減し、環境負荷低減に直接的な効果を発揮しています。



スーパーレールカーゴ



スーパーレールカーゴ専用コンテナトラック

◎スーパーレールカーゴの車両データ

最高速度	130km/h
型式	M250系
車両編成	16両編成(モーター付車両4両、付随車両12両)
運行区間	東京貨物ターミナル駅(東京)―安治川口駅(大阪) 所要時間6時間12分



コンテナの積み下ろしをするトップリフター

■さらに広がるモーダルシフト

スーパーレールカーゴ以外にも、鉄道輸送や海上輸送を積極的に活用し、トラック輸送の削減を推進しています。これにより環境負荷を低減するとともに、交通事故防止や長距離運転による労務問題の解消にもつながっています。2008年度もモーダルシフトの取り組みにより、大きな効果を得ています。

◎モーダルシフトによる効果(2008年度)

	年間減便数 (10トン換算)(台)	CO ₂ 削減量 (t-CO ₂)
スーパーレールカーゴ	16,232	10,807
鉄道輸送(スーパーレールカーゴ以外)	26,560	39,595
海上輸送(フェリー)	40,170	16,973
合計	82,961	67,375

※国土交通省出典:貨物輸送機関の二酸化炭素排出原単位(2006年度)より算出
※2008年度における実質的な削減量ではなく、モーダルシフトを行わなかった場合の環境負荷を効果として算出



資源の有効活用

ECO車体の開発と導入

SGモーターズでは、地球環境への配慮、ドライバーの荷台作業の環境改善を考慮した「ECO車体」を展開しています。2008年度の架装台数は1,412台となり、累計出荷台数は

7,400台を超えました。

2009年度は、さらなる普及を目指し、約350台の架装を目標に取り組んでいきます。

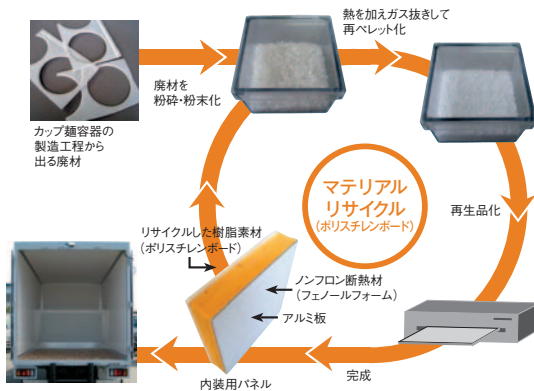
リサイクル樹脂材料を使用した内装材

木材使用量を大幅に削減するため、車両ボディーの内装材に用いられるボードには、リサイクル樹脂を利用しています。原料は、カップ麺容器の製造工程から出る廃材を100%利用。このボードの採用により、2008年度は約90トンの木材の使用を削減しました。



「ECO車体」を搭載したクール便BOX車

「ECO車体」の概要



TOPIC

植林材を使い、森林保護～アカシア材の育成と利用～

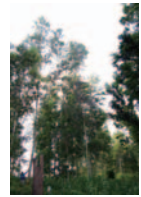
SGモーターズでは、自然と共存する企業として植林事業に協賛し、「使用する木材は自分たちの手で」をモットーに、限りある天然資源の使用を抑え、使用する木材に植林材を積極的に採用しています。

トラック内部の床用に育成の早い「アカシア材」を植林（協賛）し、使用しています。

「アカシア材」は木の性質上表面がギザギザになるため、大きな板は少ししか取ることができません。手間はかかりますが小さな板をいくつもとることで同木を有効利用し、環境に貢献しています。



植林のようす(マレーシア サバ州)



植林から4年6カ月後

太陽光発電システムの導入

世界でも広く普及が期待される太陽光発電システムは、発電する際にCO₂や有害物質を全く出さない、環境にもたいへんやさしい発電システムです。

佐川急便では、2003年度よりこの太陽光発電システムを導入しており、現在、全国21カ所で稼働し、累計440kWの太陽光発電システムを保有しています。年間発電量に換算すると、約44万kWhにおよび、これは国内の一般家庭の約120世帯分の年間消費電力量に相当します。

今後も太陽光発電システムを導入し、自然エネルギーや再生可能エネルギーの利用を推進していきます。



太陽光発電システム



太陽光発電電量表示パネル

ロイコカードの使用

オフィスなどにおける情報のデジタル化とともにレーザープリンタなどでプリントされる紙の量が増えています。その多くが一時的にしか使われないプリントです。

佐川急便では、作業内容を記載した作業指示書の発行を繰り返し書き換えられる環境にやさしいロイコカード[※]を使用しています。通常のプリンタと比較して、導入したTokyoビッグベイの「ゆうメール」専用自動仕分け機の運用において、1日に約1,500枚の用紙の使用が抑制できます。

今後も廃棄物を可能な限り減らす取り組みを行っていきます。

[※]記録面に熱を加えることで、文字を書いたり消したりすることができます。磁気を使って印字するよりも読みやすく、書き換え回数も多くなるカードです。



ロイコカード



循環型社会を目指した取り組み

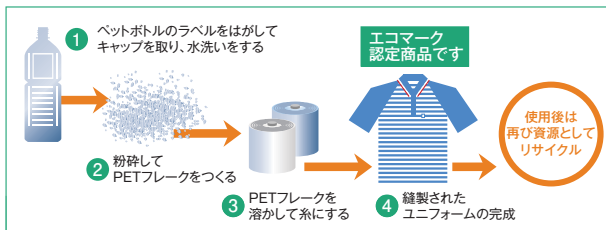
エコユニフォームの採用

SGホールディングスグループでは、地球にやさしい製品を積極的に購入する「グリーン購入」を推進しています。中でも、当グループのユニフォームには、ペットボトルを再利用した再生ポリエステルを使用しているエコマーク認定品を採用しており、2008年度に製造したユニフォームは約22万3,000着で、約65万本のペットボトルを再利用したことになります。

また、使用済みのユニフォームについては、制服管理センターで回収し、リユースが難しいと判断されたものに関しては、中間処分場にて破碎処理・ペレット化を行い、製鉄所の高炉還元剤としてリサイクルしています。

また、セールスドライバーが使用している軍手も、エコマーク認定品を採用しており、2008年度は、約91万3,800双を利用しました。

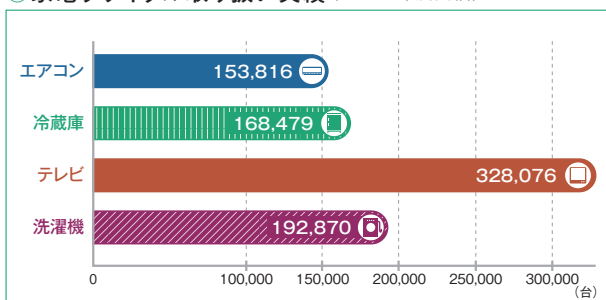
◎エコユニフォームができるまで



家電リサイクル回収品の運搬支援

佐川急便では、家電リサイクル法で回収が義務付けられている指定家電製品のリサイクルを行うため、家電メーカーからの依頼により、再商品化施設などへの搬送業務を行っています。近畿・中部・四国のグループおよび協力会社が指定業者となり、円滑な資源の循環を支えています。

◎家電リサイクル取り扱い実績(2008年度実績)



車両リサイクルの取り組み

佐川急便で使用済みになった車体は、SGモータースにて適切に処理しています。

■車両フロンの回収

整備作業時および車両廃棄時にフロンガスを大気中に放出しないよう適切に回収し、破壊処理を行っています。2008年度は41.7kgのフロンガスを回収しました。

■車両エンジンオイルの回収

エンジンオイルの交換で不要になった廃オイルは、これまでは産業廃棄物として処理していましたが、現在では有価物としてリサイクルを推進しています。2008年度は、434,900ℓのエンジンオイルをリサイクルしました。

■廃タイヤの回収

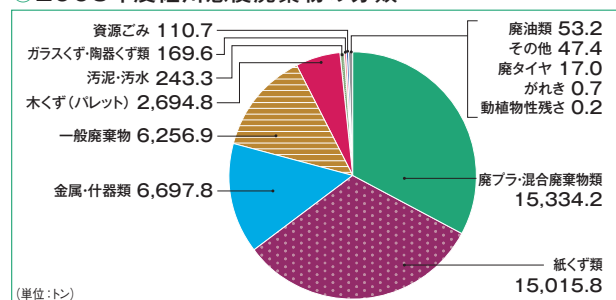
使用することができなくなったタイヤは、最終処分業者にて加工利用・熱利用・原型利用などのリサイクルを行っています。2008年度は95,048本の廃タイヤを回収しました。

廃棄物の削減対策

循環型社会の実現に向けて、事業活動で生じる廃棄物を可能な限り減らす取り組みを行っています。佐川急便では、年間を通した分別徹底運動をステップアップ方式で実施した結果、2008年度の廃棄物総量は約46,642トンになりました。

これからも、環境方針にもあるように、3Rを推進し、徹底した分別による廃棄物の抑制と再資源化を実践します。

◎2008年度佐川急便廃棄物の分類





SGホールディングスグループ環境行動

2008年度環境行動の取り組み

環境保全への取り組みを従業員自らが積極的に推進していくことを目的に、2003年より「環境行動」を制定し、活動を行っています。この取り組みは、毎年、形を変えながら、年間を通して活動する参加型のプログラムです。

◎環境行動実施項目（2008年度）

	環境行動実施項目
1	アイドリングストップ検証
2	全社一斉ライトダウン
3	クリーンアップ運動
4	リサイクル運動
5	省エネルギー運動
6	環境絵日記コンクール
7	エコファミリーコンクール
8	環境モデル店コンクール



2008年度環境行動カレンダー

■全社一斉ライトダウン

2008年4月に、地球のことを考えて行動する日「アースデイ」にあわせて、グループ全事業所・営業所の看板灯などを対象に消灯をする「全社一斉ライトダウン」を4月20日～22日の3日間実施しました。

「全社一斉ライトダウン」はSGホールディングスグループ環境行動（4月・7月・10月・1月）の実施項目でもあり、合計12日間実施しました。

電力消費量を削減することで、大きな効果につながることから、今後も継続した取り組みとして実施していきます。



ライトダウン前



ライトダウン後

■環境モデル店コンクール

SGホールディングス全事業所を対象に、環境保全の推進や環境意識の高揚を図ることを目的として、環境保全に関する活動が他の模範となる事業所を表彰し、広く公表しています。2008年度は「ペットボトルキャップ収集による環境保全とワクチン注射の寄付」などに取り組む佐川急便横浜店をはじめ、佐川アドバンス 本社、SGモータース 本社、佐川グローバルロジスティクス 仙台営業所の取り組みが最優秀賞に選ばれました。



表彰式の様子

「さがわきゅうびん自然体験学習」を通じた環境教育

環境負荷低減への取り組みだけでなく、「自然との共生」が重要であると考え、自然との共生に向けた取り組みを行っています。

「さがわきゅうびん自然体験学習」は、子どもたちに自然を身近に感じてもらい、同時に田植えや草刈り、稲刈りといった昔ながらの米づくり体験を通して、自然の恵みや食物の大切さを知ってもらおうと、2007年度より始めた活動です。

自然体験学習を通して、子どもたちに自然との共生の意識が芽生えてくれればと願い、今後も継続して取り組んでいきます。

■田植え体験

滋賀県守山市で実施した田植え体験には、グループ社員の家族や地域住民の方など約200名が参加し、約390坪の広大な水田で行いました。晴天の下、泥んこになって遊ぶ子どもたちや、慣れない作業に戸惑う大人たちなど、皆さん終始笑顔で参加してくれました。

田植え体験を通して、水田周辺に生息する生物を観察したり、自然のなかで親と子が学ぶことにより、自然の尊さ、そしてそれを次世代に伝えることの大切さを感じることができたと考えています。

無農薬の田んぼを利用し、絶滅危惧種に指定されているニゴロブナの稚魚を放流しました。この取り組みは、近年、琵琶湖で増加している外来種の魚により、激減しているニゴロブナの数回復を目的で行われたものです。外敵の少ない無農薬の田んぼで3cm前後まで育成し、琵琶湖へ放流しました。

また、伸び放題の雑草刈りを経て、9月には約670kgのお米を収穫することができました。収穫したお米は「飛脚米」と名づけ、田植えや稲刈りに参加してくれた皆さんに配布しました。



無農薬田んぼ



田植えのようす



ニゴロブナの放流



3cm前後に育ったニゴロブナ



稲刈りのようす



環境啓発への取り組み

小学生への環境授業

佐川急便では小学生を対象にした「環境授業」を各地で開催しています。

佐川急便の環境への取り組みを「物流と環境」と題して、紙芝居などを使用し、わかりやすく紹介しています。テレビや新聞などの身近な情報や社会の「環境」に対する関心の高まりもあり、子どもたちの環境問題に対する意識は非常に高く、環境授業では多くの質問をいただいています。

今後も佐川急便の環境の取り組みを通して、子どもたちの環境意識の向上につなげていく活動を行っていきます。



環境授業のようす

エコかるたの配布

環境保全活動を家庭でも実践してもらえるよう、従業員とその家族を対象に、エコかるたを作成しました。

エコかるたは、一人ひとりが取り組める「一人ひとりが出来ることカード」、地球が直面している環境問題を取り上げた「地球が危ないカード」、佐川急便が取り組んでいる活動を紹介した「佐川急便の取り組みカード」の3つのテーマでかるたを構成しています。従業員が家族と一緒に「かるた」を楽しみながら環境問題について考えていただくきっかけになればと思い制作しました。



エコかるた

環境イベントへの取り組み

広く一般に環境保全活動を推進していくため、地方自治体や省庁、団体が主催する環境イベントにも積極的に出展し、一般に向けた環境啓発活動を実施しています。

「エコ・ライフフェア」では天然ガストラックの導入、アイドリングストップなど物流事業者としての取り組みなどをわかりやすく紹介し、約3,000名の来場者が訪れました。また、「エコプロダクツ」ではエコ安全ドライブ体験コーナーなどを設け、約7,500名の来場者が訪れました。



エコライフ・フェア



エコプロダクツ

◎主な出展イベント (2008年度)

イベント名	開催日	開催場所	主催
エコライフ・フェア 2008	6月7日～8日	東京都 都立代々木公園	環境省 他
エコプロダクツ 2008	12月11日～13日	東京都 東京ビッグサイト	日本経済新聞社 他



環境活動推進の体制づくり

環境会計

より効果的な環境経営を実現するため、佐川急便では環境会計を導入しています。環境対策に関連する投資や経費を把握することで、将来の投資に向けた指標設定やプロジェクトごとの分析などに役立っています。

2008年度の実績では、自家用天然ガス充填スタンドの

新設などにより、環境投資額が約4.8億円、環境費用額が約70億円となりました。

また、環境保全効果では、前年と比べ大きな効果が出ていますが、原油高騰の影響を受けたことから、経済効果には表れませんでした。

◎環境保全コスト

(単位:百万円)

分類	主な取り組み内容	2007年度		2008年度		増減の主な要因
		環境投資	環境費用	環境投資	環境費用	
(1) 事業エリア内コスト		79	1,028	484	1,060	
内訳	①公害防止コスト	5	121	2	41	前年にディーゼル車への酸化触媒取り付けが完了したことにより、費用が減少。
	②地球環境保全コスト	73	146	482	178	自家用天然ガス充填スタンドを新たに16カ所設置したことにより、投資が増加。
	③資源循環コスト	1	761	0	842	車両エンジンオイル、タイヤ、バッテリーリサイクル量が増加したことによる、費用の増加。
(2) 上・下流コスト		—	—	—	—	
(3) 管理活動コスト	環境マネジメントシステム導入、グリーン経営推進、環境広告、環境教育、環境情報の開示	0	230	—	183	環境広告関連の減少により、費用の減少。
(4) 研究開発コスト	ECO車体等環境に配慮したサービスの開発	—	0	—	79	飛脚パソコン便関連に伴う、資材購入による費用の増加。
(5) 社会活動コスト	国内外環境保全団体への寄付、啓発活動	—	220	—	166	寄付、イベント活動費用の減少による。
(6) 環境損傷対応コスト	アスベスト粉塵対策	—	0	—	0	
(7) 安全対策コスト	安全対策としての車両点検、従業員教育、啓発活動	—	5,230	—	5,516	車両台数の増加に伴い、車両点検費用が増加した。
合計		79	6,708	484	7,004	

◎環境保全効果

環境パフォーマンス指標	2007年度	2008年度	環境保全効果 (2008年度実績-2007年度実績)
軽油(kℓ)	90,923	89,881	-1,042
灯油(kℓ)	438	292	-145
重油(kℓ)	116	76	-40
天然ガス(km ³)	14,426	16,340	1,914 (注1)
都市ガス(km ³)	1,224	1,194	-30 (注1)
プロパン(kg)	444,447	383,557	-60,891 (注2)
ガソリン(kℓ) ※ハイオク含む	13,268	17,146	3,878
電気(kWh)	24,241万	23,539万	-702万
水(上水)(km ³)	951	913	-38
水(下水)(km ³)	955	911	-43
工業用水(上水)(km ³)	8	30	22 (注3)
工業用水(下水)(km ³)	8	30	22 (注3)
NOx(t)	1,059	1,115	56 (注4)
PM(t)	68	62	-6 (注4)
ペットボトルリサイクル量(本)	—	—	650,235 (注5)

・環境保全効果は、2007年度比の単純増減で算出しています。
 (注1) 天然ガス、都市ガスについては、供給会社からの請求書に記載された数値を集計しており、温度補正、圧力補正をしていない数値です。
 (注2) 供給会社からの請求書に記載された数値(m³)を2.07kg/m³を使用し重量換算しています。
 (注3) 工業用水については2006年度から集計しています。
 (注4) NOx、PM排出量は、トラックに関するもののみ。(国土交通省の定める車両型式ごとの排出係数を基に、車両ごとの走行距離から理論上の推定値を算出)
 (注5) ペットボトルリサイクル量は、2008年度においてペットボトルを原料とするユニフォームの使用により、ペットボトルのリサイクルに貢献したと考えられる効果をペットボトル本数に換算して記載しています。(換算値:半袖2.42本/枚、長袖3.76本/枚)

◎環境保全効果に伴う経済効果

(単位:万円)

経済効果	金額
灯油使用量削減に伴う費用削減	930
重油使用量削減に伴う費用削減	0.4
プロパンガス使用量削減に伴う費用削減	225
水(上水)使用量削減に伴う費用削減	1,490

◎集計方法

- ・集計期間:2008年度(2008年3月21日~2009年3月20日)
- ・対象範囲:佐川急便株式会社単体(一部SGモーターズ株式会社含む)
- ・参考としたガイドライン:環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
- ・20万円以上の資産の取得を投資として計上しています。
- ・環境設備の減価償却は、4年間の定額償却で算出しています。
- ・人件費は環境活動時間×佐川急便平均人件費単価で算出しています。

環境マネジメントシステム

2001年より佐川急便本社はISO14001:2004の認証を受けています。より高いレベルの環境保全活動に向けて、体制の整備や実施目的・目標を設定し、達成度を検証しています。

また、2004年からは佐川急便の9つの営業店が、グリーン経営認証を取得し、現場レベルでの環境保全に対する体制整備、エネルギー使用量の低減に向けた取り組みを行っています。



ISO14001適合証明書
(佐川急便 本社)
登録証明証No.
NQE-07060074A



グリーン経営認証登録証
(佐川急便 文京店)

◎2008年度の主な環境目標と実績

排出ガスによる地球温暖化・大気汚染の防止			
【目標】	低公害車の導入を推進する (年間714台導入を計画)	→ 【実績】	既存車両を効率よく活用することを目的として増車計画の変更を行ったため計画台数に届きませんでした。 未達成 P38
【目標】	サービスセンター設立により、増車台数を抑制する (新規25店設置、増車50台抑制)	→ 【実績】	サービスセンターを29店(全国合計221店)設立。増車を78台抑制しました。 達成 P39
【目標】	次世代燃料の研究・検証を行う (バイオガソリン、BDF、バイオガスの使用を検証)	→ 【実績】	神戸店において10台の車両にバイオガスを使用。また、関東エリアにおいても86台にバイオガソリンを使用。 達成 P38
省資源・省エネルギー・3R推進による循環型社会構築のための活動			
【目標】	各種古紙の専用回収BOXを設置し、適正処理と再資源化を実施する	→ 【実績】	一般古紙、古新聞、雑誌の専用回収箱を設置し、分別による再資源化を推進すると同時に機密文書用回収箱を設置し、溶解処理を経て再資源化を実施。 達成 P43
【目標】	帳票類のペーパーレス化を推進する	→ 【実績】	退職金支給申請書1,148件、住所・通勤状況変更届4,822件、振込口座変更申請書1,985件のペーパーレス化を図りました。 達成
グリーン購入の推進			
【目標】	購買システムへ環境対応商品カタログ掲載する	→ 【実績】	1,917品目を購買管理システムへ商品カタログとして記載している内、1,152品目を環境対応商品として掲載。 達成
【目標】	グリーン適合商品発注比率の向上	→ 【実績】	グリーン購入を推進し、グリーン適合商品購入比率が66.9%となりました。 達成
社内外での環境啓発活動の推進・環境情報開示			
【目標】	冊子・Web・映像の社内報を使い分け、従業員の自社の活動理解を促す	→ 【実績】	社内誌12回(HIKYAKU)、映像社内報(SG-Stage)8回、映像社内報(ふれあい)11回、Webニュース9回により社内環境啓発を実施しました。 達成
【目標】	ニュースリリースや取材対応、記者との意見交換を行い、広くステークホルダーに情報を発信する	→ 【実績】	ニュースリリース12回、取材対応80件、ホームページ更新12回を実施しました。 達成

環境法令への対応

■地球温暖化対策の推進に関する法律 (温対法)への対応

佐川急便は、多くのエネルギーを使用して事業を営む企業として、エネルギー使用量の把握と、CO₂排出量を適切に算出し、定められた定期報告義務を果たすと同時に、地球温暖化防止への取り組みを積極的に実施しています。

また、2008年5月の改正により、これまで報告義務がなかったSGホールディングスグループ各事業会社においても、事業者単位での集計を実施し、報告対象となる事業会社は適切な報告を実施いたします。

■エネルギーの使用の合理化に関する法律 (省エネ法)への対応

2006年4月の改正にともない、佐川急便は特定輸送事業者として、事業における省エネに取り組むと同時に、エネルギー使用量の把握と適切な報告を実施しています。

また、2008年5月の改正により、工場・オフィス等での対策が強化され、これまで報告義務がなかったSGホールディングスグループ各事業会社においても、事業者単位での集計を実施し、報告対象となる事業会社は適切な報告を実施いたします。

■環境教育推進法への対応

世界的な環境保全が求められるなか、SGホールディングスグループでは、グループ全従業員への環境意識啓発に取り組んでいます。中でも、「環境行動」(P44・45)は、従業員自らが実践する取り組みとして、2003年より継続して実施しています。

また、社内だけでなく、広く一般に環境活動の輪を広げることが重要であると捉え、イベント会場での呼びかけや、小中学生への環境授業(P47)などを積極的に実施しています。

この他にも、環境にかかわる法律や条例、規制にも適切に対応し、皆さまの生活に密着したSGホールディングスグループとして、法令遵守の精神に則り、地球温暖化の防止と大気汚染防止への取り組みを推進していきます。

■自動車NOx・PM法への対応

佐川急便は、トラックを使用して事業を営む企業として、大気汚染が著しく深刻な大都市周辺地域における大気汚染の改善に取り組んできました。特に、自動車から排出されるNOx(窒素酸化物)、PM(粒子状物質)の排出を抑制するため、自動車NOx・PM法で定められた対象地域内での対策は当然ながら、対象地域外においても、天然ガストラックや規制適合車への切り替えを積極的に実施しています。



天然ガストラック



環境授業のようす

社会とのかかわり

社会

とのつながりを
大切にする。
それは、人と人を
つなぐ企業としての努めです。

お客さま、従業員、地域の皆さまとのコミュニケーションが親密になるほど、「物流」という社会インフラはより強い柱で支えられるもの。品質やサービスの向上、必要な事業や支援活動を常に追求しながら、社会とともに持続的に発展する企業グループを目指していきます。

アジア諸国との国際相互理解と経済協力



異文化交流、経済発展 異なる文化を知り、相互信頼関係を築く

「地域社会の発展に奉仕する」この行動は、SGホールディングスグループが社会から受けた恩恵を広く還元したいという想いの表れ。CSRを果たすうえでも、時代や社会の課題と向きあいながら、連携・協力の手を力強く差し伸べていきます。

2008年5月12日（月）14時28分、中国内陸部を突然にして襲った四川大地震。がれきの山と化した家屋やビル…日に日に深刻化していく被害に対して、SGホールディングスグループは被災者向けのテントを調達、援助を行いました。中国からの要請に応えた支援活動ではありましたが、こうした重要な役割を果たすことができたのは、いままで緊密な友好関係を培ってきたからこそだと思います。



SGホールディングスグループと中国、そしてアジア諸国。そこには、20年を超える交流があります。物流インフラの構築をサポートすることはもちろん、輸送に欠かせない車両や技術の支援をはじめ、留学生の奨学援助や文化の振興などなど。あらゆる分野において、現地の企業や財団を通じながら盛んに行われています。災害への対応を含めて、地域社会や経済の発展のために、できることは何だろう。活動として取り組む内容はさまざまですが、想うところはひとつ。すべてが、人々のしあわせへとつながることです。

いまや世界の工場といわれるほど、経済成長を遂げている中国。新たな時代性として大きな期待が押し寄せるアジア。日本国内とともにアジアの未来を築いていくことは、信頼の絆を深めるだけでなく、社会貢献からも極めて重要な活動だと自覚しています。

中古トラック寄贈式の模様。
ラオス人民民主共和国公共事業省のソマード・ボンセナ大臣（左）と、直井取締役（右）。

被災地へテント寄贈

中国・四川大地震への救援活動は、SGホールディングスグループの提携先である中国郵政集団速通局、浙江省郵政公司、浙江省金華市郵政局に中国国内輸送について無償協力いただき、中国人民対外友好協会※を通じて実現しました。従業員の義捐金とSGホールディングスの支援金で調達した1,200張のテントを浙江省から四川省成都まで約2,100km、50時間を4人のドライバーによりノンストップで輸送。余震も絶えなかったという道中の苛酷さは、すっかり砂ぼこりにまみれて到着したトラックが物語っていました。



※中国国民と世界各国の人々との理解と友好を深め、世界平和の維持や共同发展促進を主な目的とする団体。中古トラック寄贈以来、交流が続いています。

日本でも政府から集荷要請

佐川グローバルロジスティクスは、被災地用救援物資の集荷業務を政府より受託。6月9日(月)には、佐川急便とともに全国42の自治体から物資(主にテント)を約600張集荷、成田空港に搬入後、現地へ輸送されました。



神奈川県庁での集荷の様子

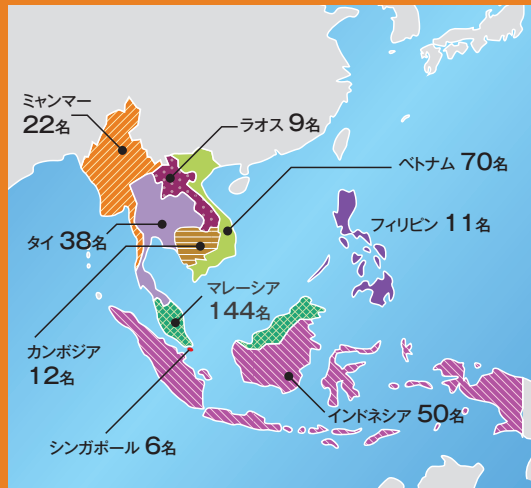
学んで深まる絆と友情

東南アジア諸国からの私費留学生を対象として、奨学援助を行う(財)佐川留学生奨学会。採用証書授与式と交流会を通じて、奨学生同士のコミュニケーションにも力を入れています。



交流会において茶を体験(佐川美術館 楽吉左衛門館にて)

▼1986年(1期)～2008年(23期)までの奨学生の国籍分布



中古トラックを寄贈

(財)佐川国際経済協力会では、開発途上国への経済協力支援として、中古トラックの無償供与を1985年より実施。その数は中国3,000台、モンゴル102台、ペルー150台、ラオス53台(2008年現在)。当該諸国では地域に即した用途で有効活用されています。



研修生の受け入れや人材育成も

中古トラック寄贈を機に、日本で「車両整備」にかかわる研修生の受け入れを実施。2001年からは中国に講師を派遣し、現地での研修も開始しています。技術指導を通じた人的交流により、国際相互理解に寄与しています。



芸術作品がつなぐ文化交流

絵画、彫刻、陶芸の分野から文化発信を重ねている(財)佐川美術館。国内の作品展示だけでなく、開館5周年には特別企画展「明代官窯青花磁器の宝庫 南京博物院蔵—中国染付 コバルトブルーの世界」をはじめ、「中国国家博物館所蔵 隋唐の美術 正倉院宝物の故郷を辿る」、「韓国ソウル・湖林博物館所蔵 李朝陶磁の名品—白磁と粉青沙器—」など、アジア文化を通じた振興にも目を向けています。

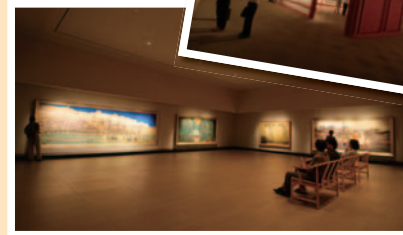


企画展のようす



開館10周年記念の壮大な企画展

「平山郁夫展—玄奘三蔵、求法の道」が、2008年9月12日(金)～11月30日(日)まで開催されました。かつてない規模でシルクロードを巡るとともに、奈良薬師寺の玄奘三蔵院画殿の堂内を《大唐西域画》に合わせて再現。原寸大の大下図をはじめ、豊富なスケッチパネルなどで平山画伯の画業を「玄奘三蔵、求法の道」として辿るものとなりました。



企画展のようす

マレーシアで代理店契約を締結

日本向け国際宅配便(エクスプレス貨物)の取り扱い拡大を目指して、佐川グローバルロジスティクスでは、ASEAN地域における拠点配備をほぼ完了し、拠点間の連携強化を進めています。マレーシアの大手物流企業「シティ・リンク・エクスプレス」と手を結んだのも、そうした戦略の一環です。家電メーカーなど多数の日系企業がいち早く進出した国として、マレーシアは輸出型ビジネスを中心とするASEANの生産拠点。日本との自由貿易協定(FTA)が発効されたこともあって、今後ますますエクスプレス事業が経済の成長を支えていくに違いありません。



調印式のようす

今後の展望

文化・経済・教育など、中国やアジアの国々において、さまざまな分野での支援や協力を行ってきました。今後も「アジアの時代」といわれる中、SGホールディングスグループはさらなる緊密な関係づくりを進めていきたいと考えています。



お客さまに向けて、サービスや商品の取り組み

3Rに対応したパソコン輸送サービス「飛脚パソコン便」

佐川急便では、3R*に対応した輸送サービス「飛脚パソコン便」を展開しています。パソコンの修理時に、メーカーとユーザー間で輸送を行う際、繰り返し使用することができるオリジナルの梱包材「SAGAWA soft air package」を使用しています。

この梱包材は、振動や衝撃から製品を守る輸送品質の高さと、従来の梱包のようにゴミを出さないなど、環境に配慮した製品として高く評価されており、2008年度は、約27万2,000件のご利用をいただいています。



飛脚パソコン便のオリジナル梱包材

*Reduce (ゴミの発生抑制)、Reuse (再使用)、Recycle (再資源化) の頭文字をとって3Rと呼ばれています。

包装資材を大幅削減する飛脚グリーンメール

「飛脚グリーンメール」は、冊子やカタログなどの開封口部分を汚さず簡単にはがすことができる特殊なテープと、宛名ラベルを貼るだけで送れるマーキングサービスです。紙やビニールなどの封筒が不要になり、包装資材を大幅に削減できる環境にやさしい輸送サービスです。今年度の取り扱い通数が前年度の3.8倍以上となる55万通に達するなど、環境意識の高まりの中でご利用が急速に増えています。

一般的なA4サイズの封筒で送る場合と比べ、1冊あたり約13gの包装資材の削減になり、毎月1万冊をご利用いただいた場合、1年間で約1,560kgの包装資材の削減につながります。

◎A4サイズの冊子を送った場合の削減量

	包装資材の重さ			毎月10,000冊を1年間
	1冊	500冊	1,000冊	
従来の冊子メール	14g	7kg	14kg	1,680kg
飛脚グリーンメール	1g	500g	1kg	120kg



封をする特殊テープ

再剥離タイプの宛名ラベル

溶解処理までの飛脚機密文書リサイクル便

佐川急便では、個人情報の保護や資源保護の環境視点からも、企業内で取り扱う機密文書が裁断処理から溶解処理へ移行するケースが増える中で、オフィスへの集荷から溶解処理まで行うサービスを開始しました。

処理の流れは、機密文書を専用箱に収納し、機密性を保持して一貫輸送で溶解処理場まで配送して、溶解処理をするものです。溶解処理した書類は再資源としてトイレット

ペーパーなどにリサイクルされます。また、溶解処理終了後、証明書をWebサービスにて発行することが可能です。



専用ダンボール

許可取得でスタートする飛脚特定信書便

「民間事業者による信書の送達に関する法律」で定められた特定信書の送達事業で参入についての許可を得ました。これにより、特定信書便事業を行うことが可能に

なり、「e-コレクト」を活用した収納代行やインターネットなどの既存インフラと連携したサービスの展開をしています。

通販インフラを安全・安心に支える代金引換サービス「e-コレクト」

インターネットの普及など購買環境の多様化の中で、国内の通信販売市場は毎年拡大傾向にあり、佐川フィナンシャル(株)の代金引換サービス「e-コレクト」は2000年の開始時から通信販売をご利用される方の安心・安全な決済サービスとして着実に普及しています。

従来のインターネットショッピングなど通信販売の支払い方法は、「銀行など金融機関へ事前振込み」や「インターネット上でクレジットカード決済をする」などが主な方法でした。そのため、利用者はカード情報の漏洩や、商品が届かないのではという不安がありました。商品と代金を直接引き換える代金引換サービスの「e-コレクト」は、専用の決済端末機を利用するためセキュリティ対策も万全です。また、事前振込みと比べて手間もかからず、現金が手元になくてもクレジットカードやキャッシュカードで支払いが可能なおかげで、通販インフラを支えるサービスとして不可欠なシステムになりました。2008年度は1億534万個、1兆2,115億円の決済にご利用いただきました。



万全なセキュリティのe-コレクト

■汎用性が広がる「e-コレクト」

「e-コレクト」は、お客さまの利便性やご要望にお応えすることで、ますます進化するサービスです。決済方法のひとつであるクレジットカードは、2009年3月現在合計20ブランドのお取り扱いが可能です。



また、業界初となる電子マネーによる決済を2007年7月より開始し、東京23区と名古屋市内で後払い方式の「クイックペイ」がご利用いただけます。

「e-コレクト」は、「現金」「クレジットカード」「デビットカード」「電子マネー」と選択肢を広げ、時代のニーズに的確に対応し、社会インフラとしての役割を担っています。

■インターネットの普及に合わせたセキュリティ関連サービス

インターネットの普及に伴い、カードによる犯罪やオークションを利用した犯罪などが急増していることから、商品のお届けの際にも本人確認が義務づけられるなど安全な取引環境の確立が求められています。

佐川急便では、受取人さまを確実に特定できる業界初のサービス「受取人確認配達サービス」を開始しました。配達時に公的証書によるお名前の照合と、あらかじめ決められているパスワードをe-コレクト決済端末機で照会することにより、二重のセキュリティを確保し、より安全にサービスをご利用いただける環境を提供しています。

また、「受取人確認配達サービス」のセキュリティをさらに強化することで、2008年3月1日に施行された犯罪収益移転防止法に対応した「クレジットカード配送サービス」を開発(2008年4月21日より取り扱い開始)しました。これにより、高いセキュリティが要求される重要な商品の取り扱いにも対応でき、利用者さま・カード会社さま双方にとって安全で快適なサービスとしてご利用いただけます。

3D顔認証就業管理システム

昨今重要視される内部統制の推進、コンプライアンス意識の高まりを受けて、日常業務の個人認証・セキュリティ強化のために、SGモバイルサポート(株)は「3D顔認証就業管理システム」を共同開発し、販売しています。

「3D顔認証就業管理システム」は、生体の一部であり唯一の「顔」を100万分の1ミリ単位でテンプレート化して、セキュリティ対策のID認証用生体情報として利用すると同時に、「タイムカード」の機能も併せて持たせることで、勤怠情報のデジタル管理を可能とするシステムです。ICカード等の発行が不要になることで、カードコストや管理業務等のランニングコストが低減され、再発行やデータ管理、セキュリティ対策などカード運用の関連業務が低減できる特徴があります。



製品設置イメージ



3Dテンプレートイメージ

財 団 活 動

佐川国際経済協力会

<http://www.sagawa-kokusaikeizai.or.jp/>

中古トラックの寄贈、車両整備技術の指導等で 関係諸国との親善に寄与

1985年に佐川急便が中国へ中古トラック200台を寄贈後、継続的に活動を行うために1986年10月に設立しました。以来中国をはじめ諸外国の経済発展に貢献し、同諸国との友好親善に寄与しようと、中古トラックを無償で供与しています。また、寄贈したトラックを末永く使用してほしいという思いから、日本・中国で車両整備研修を実施しています。



ラオス国内を走る寄贈トラック

<2008年度までの実績>

- ◇寄贈トラック数:総数3,305台
(内訳:中国3,000台、モンゴル102台、ペルー150台、ラオス53台)
- ◇受入車両整備技術研修生:累計108名

2008年の車両整備研修生は、 青海省西寧市明湖汽車公司から 6名を受け入れました

韓清団長よりいただいた言葉

「長年にわたる、中国の人材育成、改革開放への支援、経済発展への協力、中日両国の民間交流促進に対しての、多大なる貢献に感謝申し上げます。日本での研修中、日本の皆さまの仕事に対する責任感、物事に対する真面目さ、日本国民の品格に最も感銘をいたしました。中国には「人生は、ひとつ良いことするのは難しく、一生良いことをやり続けることは大変難しい」という諺があります。20年以上にわたる財団を通じた、友好事業活動の展開、社会への奉仕、貢献は佐川急便の美徳であり、勉強すべきことであります。帰国後、会社トップに報告し、この大切な経験は必ず今後の仕事、人生に生かしたいと思えます。」



SGモーターズ東京店での研修風景

お客さまに向けて、品質の向上の取り組み

「迅速・確実・丁寧」な電話応対を目指して

佐川急便では、お客さまからの一本の電話が企業イメージを決定すると考えています。電話応対を担当するカスタマーサービス課では、セールスドライバーに次ぐ第2の営業と位置づけて、お客さまに喜ばれるサービスの徹底に努めています。日々の教育としては、支社ごとにインストラクターがおり、また外部の講師の方にも定期的に指導

いただいています。新入社員には、マンツーマンで約1年間にわたり実践的な教育を行っています。



日々の業務の中での教育が重要です

■社内カスタマーサービスコンテストで、全国一定の高い水準に

カスタマーサービス課では、電話応対の技術向上を目的に、2001年から社内カスタマーサービスコンテストを実施しています。その内容は、先ず知識テストとして、作業手順に準じて約700問の問題が作成され、その中から100問が出題されます。さらに



2人1組のチームで競います

電話応対に必要なシチュエーションをつくり、外部の講師やコンサルタントが審査します。これは全国の各ブロック・地区の代表チームで競い合い、日常のサービスの質の向上に努めています。

■電話応対全国コンクールでの優秀な成績

(財)日本電信電話ユーザ協会が実施する2008年度の「第47回電話応対コンクール全国大会」が開催され、全国から9,669名がエントリーされ、佐川急便からは6名が全国都道府県の代表として出場し、東北支社二戸店の社員が優秀賞(3位相当)に輝きました。

TOPIC

5度目の挑戦、3度目の全国大会でついに優秀賞!

「東北ブロックから入賞者を!」支社の目標をかなえたい、今まで支えてくれた人に恩返しをしたいと頑張ってきたので感無量です。

大会はおもちゃ屋さんという設定だったので、実際のお店ではどんな接客をするのカーサーチに行き、自分がうれしいと思える応対を心がけました。今後もお客さまの立場に立った応対と明るくさわやか、元気のいい一声、佐川ファンのお客さまを増やせるように頑張ります。



佐川急便(株) 二戸店 田口淳子

品質向上への取り組み

■ISO9001の取得

佐川急便では、お客さまに満足いただけるサービスの提供を目指して、お客さまのニーズに的確にお応えできるサービス品質の管理を実施しています。2009年5月現在、品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001:2000の認証を373の事業所で取得しており、輸送サービスに関連するプロセスの継続的な改善に取り組んでいます。



ISO9001適合証明証

■クオリティマークの認定

佐川急便独自の品質管理として、「クオリティマーク」の認定を行っています。これは、お客さまのニーズに的確にお応えするためのサービス品質管理で、時間帯サービスの履行率や不在再配達率の履行率など15項目の基準を設けて審査を行い、2008年度の認定営業店舗数は8店舗でした。



クオリティマーク

働きやすい職場環境づくり

SGホールディングスグループの社員数は約45,000名、パート・アルバイト・契約社員を含めると約58,000名になります。全従業員が働きやすい職場づくりのために、お互いの人権・人格と個性の尊重や職場でのプライバシーの尊重、安全で健康的な職場環境づくりのために5S（整理・整頓・清潔・清掃・しつけ）の徹底などに取り組んでいます。また当グループでは、従業員はかけがえのない

「人財」と考え、一人ひとりが働き甲斐を感じてもらえるよう常に心がけています。



障がい者の雇用を促進

佐川急便の2008年度の障がい者雇用率は、1.80%で法定雇用率を達成しています。特定法人での集約雇用ではなく、健常者と同じ職場で働く点が他の企業との大きな違いです。同じ職場で一緒になって業務に取り組み、互いに苦勞を分かち合い、目標達成の喜びを共有する。

真の意味で「障がい者の自立につながる」という考えをもって取り組んでいます。

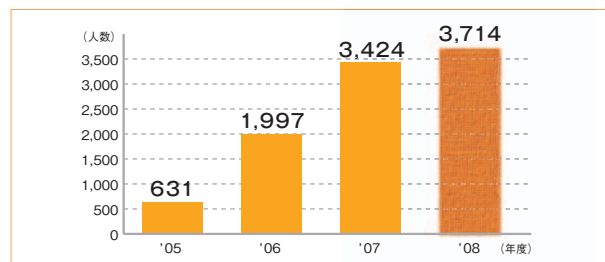
今後もこのポリシーに基づき、ともに成長できる雇用促進への取り組みを進めていきます。

職域を越えて女性従業員の活躍を支援

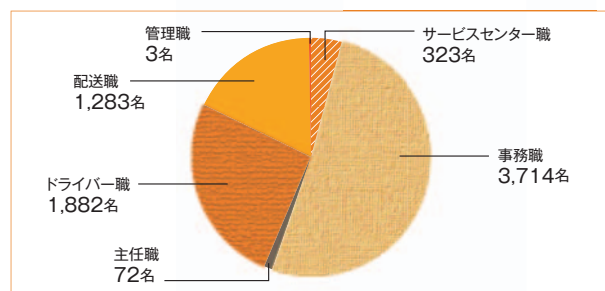
従業員一人ひとりがその個性と能力を存分に発揮できる場を提供することは、将来を見据えた労働力確保のための企業戦略だと考えています。そのため、性別や年齢にとらわれることなく、さまざまな職域において積極的な採用を行っています。その中でも、女性従業員の採用数は前年比108%と大幅に伸びており、さまざまな職場で活躍しています。職種別に見ると、事務職の3,714名が最も多く、次いでドライバー職が1,882名、管理職に就いている女性社員もいます。単に女性従業員を増やすだけではなく、しっかりと育成し、能力開発を視野に入れたうえで、管理職への登用を積極的に推進しています。

また、育児休業の取得から復帰後の就業促進など仕事と育児の両立を高める施策も進めており、出産後に職場復帰している女性従業員も数多くいます。

◎女性従業員入社人数の推移



◎女性従業員職種別内訳



充実した人材育成・研修制度

教育研修を通じて全従業員が仕事に対するやりがいと自己の成長を実感してもらうため、佐川急便ではさまざまな全国統一の教育体系を整備しています。

さらにより良い人材を育成していくためにも、今後は教育研修を修了した者の成果や成長を数値化して測定する仕組みの構築を目指します。

◎2008年度研修実績

	研修名称	人数		研修名称	人数
1	新入社員基礎研修	8,354	7	SD指導員認定研修	2,131
2	安全運転基礎研修	6,022	8	安全運転検定員認定研修	442
3	SD独り立ち認定研修	7,018	9	安全管理者専任時研修	239
4	CS基礎実務研修	1,489	10	管理職実務講座	1,340
5	CS独り立ち認定研修	708	11	リーダーシップ研修	2,735
6	CS指導員認定研修	135	12	店長初任研修	42
合計(のべ)					30,655

社員・家族専用Webサイトで生活をサポート

SGホールディングスグループでは、専用ホームページ「SGホールディングスグループ 社員・家族向けサイト」を運営しています。健康や職場環境における悩みなどの各種相談窓口や、全国の保養所・リゾート情報、各種ライフサポート情報などを掲載し、心も体も豊かな生活が送れるよう役立っています。



財 団 活 動

佐川留学生奨学会

<http://www.sagawa-ryugakusei.or.jp/>

留学で学んだことを活かして母国の発展に貢献したい

佐川留学生奨学会は、東南アジア諸国からの外国人留学生に、奨学金支給や生活指導を行っています。第19期奨学生で、東京大学大学院で工学博士号を取得したマレーシアのイット・フーチョンさんに話を伺いました。

●留学を志した理由は？

中学生のころ、マレーシアは日本の家電製品などがブームになっていました。私はエレクトロニクス分野に興味があり、ぜひ技術力の高い日本で勉強したいと思っていたからです。そして1996年、21歳の時に来日しました。

●応募した理由は？

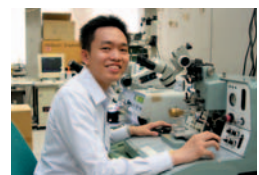
文部省(当時)の奨学金制度を使って来日し、大阪大学外国語学部で日本語と高校卒業程度の基礎知識を学びました。その後、東京大学大学院に進学。制度の適用が電子工学の修士課程修了までだったので、ぜひ博士課程にも進みたいと応募しました。

●将来の目標は？

現在、東京大学発のベンチャー企業で、大容量のデータ通信などが可能な電子部品の開発・製造・販売を行っています。当面はこの技術を普及し、会社を成功させることが目標です。将来は同じ分野の会社を立ち上げ、母国の発展に貢献したいと考えています。

●財団に期待することは？

日本が国際化していく中で、財団の役割はますます大きくなっていくと思います。今後も手厚いサポートで、さらに多くの奨学生を受け入れていただけるよう期待しています。



第19期生 イット・フーチョンさん
(先端フォトニクス(株)勤務、
東京大学先端科学技術研究センター共同研究員、
工学博士)

財団法人佐川留学生奨学会の概要

日本と東南アジア諸国との国際交流・友好親善を目的に1986年2月に設立。東南アジア諸国から日本へ留学する学生を対象に奨学金援助を行っており、経済的支援を行うほか、留学生の交流活動にも力を入れ、奨学生同士の友情と絆を大切にしています。

<2008年度までの実績>

◇奨学生採用人数:362名
◇奨学金支給金額:8億430万円
(1名につき月額10万円を2年間支給)



理事長・栗和田榮一から採用証書を授与される留学生

メンタルヘルスケアの促進

SGホールディングスグループでは、従業員とその配偶者・扶養家族を対象に「SGホールディングスグループ健康ダイヤル24」を開設し、専門機関による電話相談を24時間フリーダイヤルにて受け付けています。相談内容も健康・医療・介護・育児相談や医療機関情報の提供といった「家庭生活」から、仕事や人間関係などの悩み・ストレスなどの「こころの問題」まで幅広く、匿名による相談も可能です。

また希望により、専門家による「面談カウンセリング」を47都道府県全200カ所で受けることができ、従業員とその配偶者・扶養家族の方々に、さらなるサポートの充実と周知を図っています。



「健康ダイヤル24」ポスター

VOICE

健康への意識づくり

心と体は、常に健康な状態でいたいものです。忙しい毎日と追われて、ついおろそかにならないよう、さまざまな媒体を通して従業員に意識づくりを呼びかけています。

中でも、毎月発行される社内報「HIKYAKU」には、「飛脚の元気街道」コーナーを設け、健康の自己管理(セルフチェック)方法や腰痛、インフルエンザや花粉症の予防法など、健康管理に関するさまざまな情報を掲載しています。特に、一日中屋外で

作業を行うセールスドライバーにとって、夏の暑さは大敵です。そこで、夏の暑さに負けない体づくりのための特集を組むなどして注意を呼びかけています。これらの記事は、健康保険組合のベテラン保健師4名が、心を込めて作成しています。

SGホールディングスグループ健康保険組合 東京健康推進室 保健師
山本 加奈



「家族参観」で高めるグループ力

「セールスドライバーの仕事を知りたい」。そんな社員の家族の声に応じて、会社参観を行いました。「お父さんみたいになりたい!」「お客さまのお荷物を預かる大変な仕事だとわかりました」など、参加した家族から感想をいただきました。

親子や兄弟で働く従業員も多い佐川急便では、お互いを理解、尊敬し合う温かい気持ちがグループを支える元気の源になっています。



充実した福利厚生

■SGホールディングスグループ スポーツフェスティバルを開催

社員がいきいきと働くためには、家族の理解・協力が重要です。そこで、SGホールディングスグループでは、社員だけでなく家族も含めた全体で成り立っているという考えのもとに、社員や家族の親睦を深められるよう、グループ各社または事業所、地域ごとにさまざまなイベントを開催しています。

中でも、グループを挙げての一大イベントとして、毎年5月の初旬に開催しているのが「SGホールディングスグループ スポーツフェスティバル(SSF)」です。全国から社員と家族が滋賀県守山市にある保養施設「守山パーク」に集結し、スポーツやイベントを通じてひとつになるよろこびを実感しています。



■クラブ活動

芸術やスポーツへの支援、子どもたちの教育支援などに、佐川急便は地域社会と協力しながら取り組んでいます。

スポーツの振興と健全な体づくりを目指し、さまざまなクラブ活動を支援しています。

陸上競技部

毎年元旦に行われる全日本実業団駅伝に、14年連続で出場を果たしています。また、びわ湖マラソンに出場した清水智也選手は初マラソンで日本歴代記録第3位となりました。北京オリンピックでは、谷井孝行選手が競歩日本代表として出場を果たしました。



サッカー部

日本フットボールリーグ(JFL)所属。2007年度は初のJFL優勝を果たしました。サッカーアカデミー(小中学生を対象)を開校するなど、リーグの連覇を目指しながら、本拠地の滋賀県に根付いたチームづくりを進めていきます。



女子ソフトボール部

2005年度、日本ソフトボールリーグ3部に参加し優勝。翌年2部に昇格し優勝を果たす。1部リーグ初参加の2007年度、2008年度ともに8位。次年度は北京オリンピック銅メダリストの外国選手も加わり、さらなる新戦力でチーム強化を図ります。



TOPIC

谷井選手、世界の大舞台で見事完歩！

8月22日、北京オリンピック男子50km競歩。このレースに照準を合わせ、努力を重ねてきた谷井孝行選手は、30℃を超える暑さの中、沿道からの声援に応えながら見事29位で完歩しました。

「応援ありがとうございました！2009年8月世界陸上ベルリン大会の日本代表選手として出場するにあたり、もっと技術面で成長し、より良い結果を出せるよう頑張ります」



粘り強い歩きを見せる谷井選手

■厚生施設の提供

従業員が心身ともにリフレッシュできる施設として、国内外に厚生施設および契約リゾート施設を提供しており、一家そろってのコミュニケーションに活用されています。

◎主な厚生施設



レークさがわ

日本一大きな湖・琵琶湖の東岸に臨む「レークさがわ」は、豊かな自然と開放的な風景を楽しめ、守山パークにも隣接し、心身ともにリフレッシュできます。



熱海さがわ荘

日本有数の保養地・熱海にある「熱海さがわ荘」は、太平洋の大きく輝く波と豪快な風わたる海岸沿いに位置し、日常から解き放たれたりリフレッシュ体験を堪能できます。



SGホールディングスグループ
守山陸上競技場

滋賀県守山市にある守山パークには、陸上競技場、野球場3面、ソフトボール場、人工芝サッカー場、体育館、室内プールを備え、社員をはじめ地域の方にもご利用いただいています。

さらなる向上へ社員表彰制度

グループの活性化と社員のモチベーション向上を目的に、SGホールディングスグループでは、合同表彰式を開催しています。

優れた業績を収めたグループ社員（個人）と、年間を通じて業績・品質・安全の向上に努め、優秀な成績を収めた佐川急便営業店（グループ）に与えられる制度で、当グループの財産として称えています。



財 団 活 動

佐川がん研究助成振興財団

<http://www.sagawa-gan.or.jp/>

緩和ケアの質を高め、患者のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）向上を図る

佐川がん研究助成振興財団は、がん看護研究がさらに進み、研究者の励みとなるように「佐川看護特別研究助成賞」を設置しています。

受賞者である、東海大学医学部付属病院看護部緩和ケアチームの塚田美智子さんに話を伺いました。

●緩和ケアとは？

ひと口に「がんの痛み」といってもさまざま、治療と同時にケアも必要とされます。緩和ケアとは、患者さんのつらさを体と心、社会生活、そしてご家族まで含めた全体として支え、つらくならないようがん付き合っていくための方法です。

●財団の活動をどう思いますか？

がんに対する研究はまだまだ途上段階で、患者側に立ったケアも不足しているのが現状です。また、医師に対する助成はあっても、看護師に対する助成はなかったことから、佐川看護特別研究助成賞を受賞し、緩和ケアを向上させるための研究の機会をいただいで感謝しています。



佐川看護特別研究助成賞
受賞者 塚田 美智子さん
(東海大学医学部付属病院
看護部緩和ケアチーム専従
看護師・がん性疼痛看護認定看護師)



理事長・栗和田榮一から助成金を授与

財団法人佐川がん研究助成振興財団の概要

日本人の死亡原因第1位であるがんの基礎研究や応用治療研究などの活動を助成し、医療福祉の向上に寄与することを目的として、1989年2月に設立。研究助成金の支給、研究助成賞の授与、がんの予防啓発を目的とする市民公開講座の開催などを行っています。

<2008年度までの実績>

- ◇研究助成件数:331件/金額:3億2,400万円
- ◇特別研究助成件数:12件/金額:6,000万円
- ◇看護特別研究助成件数:11件/金額:1,100万円
- ◇市民公開講座/東海テレビレピアホール(名古屋)
来場者数:約450名

ステークホルダー・ダイアログの開催

物流事業者として、佐川急便が社会から求められている期待や役割とはなにか、また事業活動の中で貢献できることはなにか、その要望に応えられているかなどを知るために「SAGAWAステークホルダー・ダイアログ」を2004年度から開催しています。第5回目になる2008年度は、アメリカの金融危機から始まった未曾有の経済停滞の中、物流が社会インフラや産業インフラと緊密な関係を

もっていることから、物流事業者の側からいかに経済活性に貢献できるような活動とはなにか、また事業経営の面からも社会の声を聞きながら経済危機に対処していくことを目的に、「物流事業者が消費者の心をつかむためには」のテーマで、参加いただいたステークホルダーの方に議論を展開していただきました。

※ステークホルダーとは 企業をとりまく「利害関係者」のこと。お客さまや取引先だけでなく、従業員や経営者、地域住民やNGO、行政、マスコミなども含み、企業活動を展開する中で、直接、間接に関係するすべての人々を指します。

第5回ステークホルダー・ダイアログの概要

■参加者それぞれのキーワードから ディスカッションを展開

2つのグループに分かれて展開したグループディスカッションでは、参加者それぞれが提示したキーワードを台紙に書き、参加者の問題意識を共有するという手法によって、さらに議論を深めました。そこから、今後の物流事業者のさまざまな活動に対して数多くのアイデアや提言をいただきました。

【テーマ】

物流事業者が消費者の心をつかむためには

【実施日】

2009年2月6日(金)

【場所】

東京

【参加者】

18名
行政関係者、学識経験者、NPO・NGO代表者、
企業担当者、ジャーナリスト、佐川急便担当者

【実施内容】

- 基調講演
- グループディスカッション
2つのグループに分けての議論展開
討議テーマ(A):「生活者や個人(to C)の心をつかむには」
討議テーマ(B):「企業(to B)の心をつかむには」
- グループ発表および全体ディスカッション



グループディスカッション



キーワードを共有



グループ発表



全体会議のようす

■全体ディスカッションで出された意見(抜粋)

「物流と生活者・地域との連携」

高齢化が進むと、商店街まで歩いて買い物に行くことが難しい人が増えてくる。特に一人暮らしの高齢者はコミュニケーションが途絶えがちだ。宅配業者が、世間話や雑談をすることも大事だろう。

「地域のステークホルダー会議を開催」

消費者や生活者が参加する機会を提案し、議論する場を共有することは大切ではないか。地域とつながりや接触をもてれば、新しい地域のサービス産業化もありうる。活発に活動している地域や環境モデル都市のいくつかで開催するなど、まさしく新しい地域創造も可能であると考えられる。

「情報提供の必要性」

消費者との共感を得るためには、企業が責任をもっている。消費者に対して企業は、教育とはいわなくても、情報をしっかりと訴求してほしい。

■ダイアログを終えて

今回、さまざまなご意見を頂戴し、消費者と共感するためには、双方向のコミュニケーションが必要であると感じました。そのための地域社会における「コミュニティインフラ」として、社会に貢献できるよう取り組んでいきたいと考えています。



財 団 活 動

佐川美術館

<http://www.sagawa-artmuseum.or.jp/>

開館10周年を迎えた佐川美術館

文化事業として、地域をはじめ広く社会に貢献することを目的に、佐川急便創業40周年記念事業の一環として、滋賀県守山市に開館した佐川美術館も開館10周年を迎えました。日本画家の平山郁夫先生、彫刻家の佐藤忠良先生の作品を中心に展示する他、東西の文化交流をテーマにして海外の貴重な美術品の紹介や日本美術の浮世絵や漆器、琵琶湖の自然をモチーフにした外国人作家の水彩画など、琵琶湖のほとりの文化拠点としての活動を展開しています。

開館10周年の記念展は、佐藤先生の希望もあり、4月に「小磯良平と佐藤忠良～モデルへのまなざし～」を開催。9月には2001年の元旦に奈良・薬師寺へ奉納された『大唐西域壁画』を数多くの方々に見ていただきたいとの願いから、平山先生が各場面を50号の大作に再描写し、数十年のシルクロード取材の壮大な画業を「玄奘三蔵、求法の道」と題して開催しました。

また、美術館では「福祉の日」を設けて、障がい者の方やそのご家族、ボランティア、福祉施設の職員の方たちへの無料ご招待活動も行っています。



佐川美術館 福祉の日



開館1周年を経た樂吉左衛門館

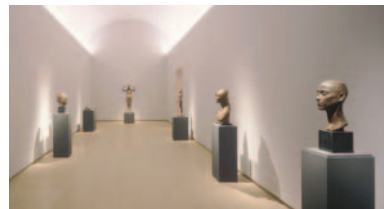
400年余りの歴史を受け継ぐ日本独自の陶芸・樂焼の家系の十五代目で、伝統に根ざしながらも、常に斬新な感覚を示す造形美の世界を表現し続けている樂吉左衛門先生の作品を展示した佐川美術館 樂吉左衛門館も2008年9月に開館1周年を迎えました。



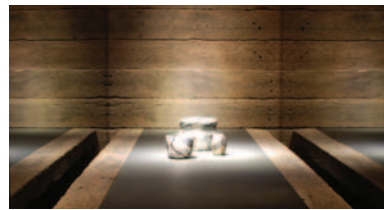
佐川美術館



平山郁夫館



佐藤忠良館



樂吉左衛門館

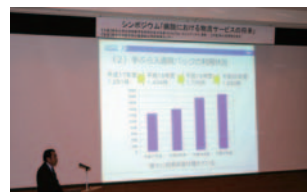


地域社会とともに 「内外の地域支援・協力」 「産学官民の連携や協賛活動」

産学連携で、病院の物流（ホスピタル・ロジスティクス）を実証研究

佐川急便では、東京大学医学部附属病院22世紀医療センター内に、寄付講座「ホスピタル・ロジスティクス」を開設してきました。研究テーマは、毎日非常に多くの人や物の流通がある病院の状況に着目して、病院に必要な医薬品や医療材料の調達・供給方法、患者の利便性向上のため

の物流サービスなどです。実証研究としては、患者さま向けのサービス開発などを展開しました。



シンポジウムなどでも情報交換

講演活動を通じて先進的な取り組みを紹介

お茶の水女子大学で行われた「環境を考える経済人の会21(B-LIFE21)」主催の寄付講座において、当社代表取締役会長兼社長の栗和田榮一が環境の取り組みをテーマに講師を務めました。また国土交通省や環境省などの主催によるセミナーにも多数講演し、問題解決への情報提供を行っています。



講演のようす

◎2008年度講演実績

実施日	講演名	場所
7月14日	京都女子大学講演	京都女子大学
7月18日	天然ガス自動車フォーラム研究会	経団連会館
9月18日	物流環境管理士養成講座	砂防会館
10月15日	京都商工会議所CSR特別委員会	からすま京都ホテル
10月30日	環境教育研修	環境省環境調査研修所
11月6日	明治大学「環境と政治・経済・社会II」講座	明治大学 駿河台校舎
11月12日	B-LIFE21寄付講座	お茶の水女子大学

スポーツイベント等へ積極的に協賛

佐川急便では、さまざまなスポーツイベントをはじめ、2005年より“京都発”のピンクリボン運動に参加、啓発活動の応援やシンポジウムの開催にも協賛しています。

■サガワ カマモト ジュニアカップ モリヤマ2008

少年サッカーの交流と技術向上を目的として、第1回から協賛をしているこの催しは、今年で12回目を迎えました。今大会は24チーム、500名の子どもたちが参加し、手に汗握る試合が繰り広げられました。



白熱した試合を展開

■スポレク滋賀2008

第21回全国スポーツ・レクリエーション祭において、当グループの文化・スポーツ発信の地である滋賀で佐川美術館とサッカー部が協同して地域の方々と交流を深めました。

■ゴールデン・ルーキー賞

日本プロ野球の新人王に贈られるゴールデン・ルーキー賞に、2002年から協賛しています。受賞選手には、(財)佐川美術館ともゆかりの深い、彫刻家の佐藤忠良氏制作のブロンズ像「萌える」が贈られます。

■佐川急便杯

第54回アマチュア本因坊決定戦全国大会

この大会は、全都道府県代表や学生代表、女性代表などが参加し、囲碁のアマチュア棋士日本一を決める大会で、2004年から協賛しています。

健やかな心を育む「夢先生」

サッカー部では、地域貢献活動の一環として「財団法人日本サッカー協会 ころのプロジェクト～夢先生～」に賛同して、学校教育の現場と力を合わせて、子どもの心の教育に取り組んでいます。これまでに地元小学校5校、計682名に対して授業を行いました。また、幼稚園や保育園を訪問してのサッカー教室や地域の小学校3年生～中学生までを公募してサッカーアカデミーも開校しています。



JFAころのプロジェクト～夢先生～

京都市民イベント等に協力

女子ソフトボール部は、京都市民イベント「みんなのスポーツフェスタ」に参加し、市内の小中学生約300名を対象に、ソフトボール教室の指導を行いました。また、SGホールディングスグループ守山パーク内に全国各地の高校生を対象とした合同練習を開催して、年間約330名が参加しました。今後ともソフトボールの普及、技術向上へ取り組んでいきます。



ソフトボール教室

JOCパートナーとしてさまざまな活動を展開

佐川急便は、2003年にJOC(財団法人日本オリンピック委員会)環境オフィシャルパートナーに認定されて以来、さまざまな活動を行いました。オリンピックムーブメントの推進をはじめ、日本代表選手団のサポート、またJOCが主催するイベントで環境啓発活動を積極的に行ってきました。

オリンピックデーランは、オリンピック選手と一緒にジョギングをして、スポーツの楽しさを知ってもらうための

活動です。2008年度は、環境イベントとしてスポーツ発電リレーを開催し、計2,695名の参加により2,884.24Whの発電量を記録しました。



イベント会場のようす

TOPIC

“輸送”種目で活躍した北京オリンピック

中国から日本への観戦チケットの輸送をはじめ、日本代表選手団への公式支給品の輸送、また、開催中はJOCジャパンハウス*のサービスの一環として、宅配カウンター*の設置により国際宅配便サービスを受託するなど、JOC協賛企業として協力しました。

*JOCが日本代表選手団と地元の日本人の活動拠点として設置する施設。



ジャパンハウス内 佐川急便ブースにて
来場者数 約9,000名



宅配便サービスカウンター



社員から家族へ 地球にやさしさを

環境会計を担当し始めてから、よりエコ活動に意欲的になりました。節電をはじめ資源を無駄遣いしないように、また、使用済切手を利用して車椅子寄贈活動にも協力しています。あらゆる環境活動を通じて、地球へのやさしさを次の、その次の世代まで伝えられたら素晴らしいです。

佐川急便(株) 北海道支社 管理部 管理課
小林 亜矢
Aya Kobayashi



笑顔と一緒に お荷物をお届けしたい

どんな大きなお荷物でも、いつも元気に笑顔で届けてくれる。以前に出会ったその女性のように働いてみたい、と思う一心で佐川急便に入社しました。今では、憧れだったセールスドライバーになれて、今度は私が笑顔でお客さまにお荷物を受け取っていただけるよう頑張っています。

佐川急便(株) 仙台店 営業課
北向 恵
Megumi Kitamukai



「急」のつく行動を しないこと

日々、心がけていることは、エコ安全ドライブ活動です。急発進、急加速、急ブレーキをしないよう、運転中は運転のみに集中、時間や気持ちにゆとりを持ち、広い視野で周囲の状況確認を行う。その運転がCO₂の排出量削減や一番大事な安全運転にもつながり、事故もなくなります。

佐川急便(株) 城西店 営業課 主任
大澤 邦之
Kuniyuki Ohsawa



人や社会に愛される ドライバーであれ

担当エリアから事故をなくす。その目標に対して、制限速度を守るペースカーとなって安全に貢献しています。一人でも多くのドライバーが、地域の方々から愛され、社会に役立つ佐川急便となっていけるよう、まずは自分からどんな些細なことでも積極的に活動していきます。

佐川急便(株) 名古屋店 営業課 主任
前野 雄治
Yuji Maeno

「これからも、もっと、ずっと。」 ～ SGホールディングスグループ社員より、



早い配達で 信頼されるドライバーに

心を込めて集配したお荷物によって、お客さまの仕事をサポートすることができたり、喜んでいただけることに喜びを感じます。ドライバーコンテストで得た知識を広げて、より安心・信頼されるドライバーになるとともに、交通事故を少しでも減らすことができたら良いと思います。

佐川急便(株) 東大阪店 営業課
杉本 こなつ
Konatsu Sugimoto



安全教室で 子供たちの笑顔を守る

園児や小学校低学年児童とのふれあいを通じて、日頃ハンドルを握る立場から、交通ルールや安全を理解してもらえよう取り組んでいます。お客さまと接する中で実感するのは、やはりお客さまの気持ちを運んでいるということ。それをやりがいに、もっと信頼を広げていきたいです。

佐川急便(株) 鳥取店 営業課
末宗 覚晴
Nobuharu Suemune



物流のあらゆる過程で パイプ役を果たす

お客さまに応じた輸送プランを提案することで、そのお荷物に携わる方々の仕事のお手伝いできたときには、社会に役立っていると感じます。笑顔で訪問すれば、笑顔が返ってくる。それをプラスのエネルギーとしてお荷物と一緒に配達し、地域社会に貢献したいと思います。

佐川急便(株) 都城店 営業課
陳ヶ尾 貢
Mitsugi Jingao



物に込められた想いも 大切に運ぶ

ひとり暮らしのおじいさんのお宅に、テレビの設置配送に向ったときでした。お孫さんたちが映るDVDを初めて観て喜ぶ姿に、送られた息子さん家族の想いを運ぶことができたこと、おじいさんの感動までも一緒に味わうことができたことに、とても幸せな気持ちになりました。

佐川引越センター(株) 東京支店
土江 孝
Takashi Tsuchie



環境も配慮した 物流センターづくりを

佐川流通センターとして、再生品の緩衝材を提案するなど、環境にやさしい「グリーン物流」をはじめ、排気ガスの削減やゴミの再資源化に貢献しています。お客さまの大切な商品をお預かりしながら、これからも「ムリ・ムダ・ムラ」をいかに削減していくかを目指していきます。

佐川グローバルロジスティクス(株)
西東京支店 大井SRC 主任
宮城 佳乃子
Kanoko Miyagi



常にお客さまへの 親身な対応を

お客さまからのお問い合わせに対する電話対応業務を行っています。e-コレクトを管理しやすく、より有効にご活用いただけるようお応えすることが社会貢献だと思います。今後は、社内でやっているエコキャップ運動などの環境活動に積極的に参加していきたいと考えています。

佐川フィナンシャル(株)
決済サービス事業部 営業推進グループ 顧客サポートチーム
高橋 京子
Kyoko Takahashi



恩返しの気持ちで お客さまに満足を

普通免許の資格しかなかった私が成り立っているのは、上司や後輩に恵まれているお陰です。その恩返しの意味でも知識や技術を学び、お客さまにご満足いただけるよう車検・整備などを行ってきました。これからも、いままで以上に努めながら貢献していきたいと思っています。

SGモータース(株) 広島店
川端 豊和
Toyokazu Kawabata



スムーズな出荷で お客さまのもとへ

佐川急便出荷支援システム「e飛伝シリーズ」の電話サポートを行っています。お客さまの困ったことやトラブルを解決できて、スムーズな出荷ができた時、お客さまのお役に立てて本当に良かったと実感しています。そして「ありがとう。助かりました」そのひと言に喜びを感じています。

佐川コンピューターシステム(株)
システムサービス部 沖縄コンタクトセンター
坂本 恵美子
Emiko Sakamoto

社会に役立っていききたい」

私たちの想いを感じてください。～



自分より 相手のためを考えて

現在ISO14001業務に携わっていることから、会社や社員、地域のために何がよい環境なのか、何が必要とされているのかなど、常に全体を考えて行動するようにしています。入社して今年で10年目。SGホールディングスグループの社員であることをとても誇りに思っています。

佐川アドバンス(株) 本社 総務部
近藤 寿子
Hisako Kondoh



駐車違反の減少で より交通安全へ

時間貸し駐車場の業務を通じて、一般道路における駐車違反の減少という面で社会貢献をしていると思います。さらには、駐車場を増やしていくことで、駐車違反を減らすだけでなく、道が広がって交通事故も防げる。つまり、社会の安全を守ることにつながると思います。

SGモバイルサポート(株) 東京営業所
濱田 浩一
Kouichi Hamada



施設ご利用の皆さまに 喜ばれるように

自社施設と管理受託施設において、燃料用地下貯蔵タンクや浄化槽などの水質汚染・土壌汚染を防止するために、適切な施設管理を行っています。不動産管理という仕事を通じて、リニューアルや新築時には、省エネルギーを重視した施設づくりを積極的に提案していきます。

SGリアルティ(株)
業務部 業務課 東北地区
駒木 高晴
Takaharu Komaki



お客さまからの 温かい言葉に想う

「きょうは楽しかった、また来るよ」「ありがとう」。笑顔でそう言ってもらえると元氣になれるし、お客さまの明日の活力となるように頑張ろうって実感します。これからも、楽しく心地よい時間を通じてリフレッシュしていただけるよう、サービスの提供に努めていきます。

(株)ヌーヴェルゴルフ倶楽部 営業部 フロント担当
松原 勝美
Masami Matsubara

第三者保証報告書(クライメート・セイバーズ・プログラム)



独立した第三者保証報告書

佐川急便株式会社
代表取締役社長 平間 正一 殿

2009年6月5日

1. 保証の対象と目的

株式会社あらたサステナビリティ認証機構(以下、「当社」という。)は、佐川急便株式会社(以下、「会社」という。)からの委嘱に基づき、会社と財団法人世界自然保護基金ジャパン(以下、「WWF」という)との間で締結された「クライメート・セイバーズに係る覚書」(以下、「覚書」という)に基づき、会社が算定した2008年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度に関して保証業務を行った。保証業務の目的は、SGホールディングス株式会社が作成した「CSRレポート2009」(以下、同レポートという)に記載されている会社の2008年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度を対象に、「覚書」並びに会社の方針及び基準を規準として、以下の点について独立の立場から結論を表明することである。

- 同レポートに記載されている会社の2008年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度(同レポートP37)が、「覚書」並びに会社の方針及び基準(同レポートP36,37)に従って、重要な点において収集、報告されていないと認められる事項がないかどうか。

同レポートに記載されている会社の2008年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度は、会社の責任のもとで作成されたものであり、当社の責任は独立の立場から結論を表明することにある。

2. 実施した保証手続の概要

当社は、「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務(ISAE3000)」(2003年12月改訂 国際会計士連盟)及び「環境報告書審査基準(案)」(2004年3月公表 環境省)に準拠して業務を行った。本業務はこれらの基準に基づき限定的な保証を提供するものである。また、本業務は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠した監査ではなく、従って監査意見を表明するものではない。

保証業務において行った手続の概要は以下のとおりである。

- 会社の全般的状況及び2008年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度のマネジメントに関する本社における資料の閲覧、質問
- 同レポートに記載されている保証対象に関する、会社の方針及び基準の設定と運用の状況に関する本社及びサイトにおける質問
- 保証対象を測定、集計、報告する方法に関する本社及びサイトにおける資料の閲覧、質問
- 保証対象について本社及びサイトにおけるサンプリングしたデータと根拠資料の証憑突合、各根拠資料間の整合性の評価、分析的手続

- 選定した往査サイト

	サイト名	主な機能
佐川急便株式会社	本社 東京本部 総務部環境推進課	本社機能
同	本社 東京本部 財務経理部経理課	東日本地区 担当

なお、手続を実施した会社の2008年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度に関する記載情報については、同レポートの該当箇所マーク(☑)を付した。

3. 結論

当社の結論は、以下のとおりである。

- 同レポートに記載されている会社の2008年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度が「覚書」並びに会社の方針及び基準に従って収集、報告されていないと認められる重要な事項は、当社が実施した手続の範囲では発見されなかった。

4. 独立性

会社と当社の間には、「環境報告書審査基準(案)」及び公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

株式会社あらたサステナビリティ認証機構



東京都港区芝浦四丁目2番8号
住友不動産三田ツインビル東館

代表取締役社長

山手章

2008年度のあしあと (2008年3月21日～2009年3月20日)

以下の内容はSGホールディングスグループで2008年度に発信した主なニュースリリースをまとめました。

配信日	内容	配信元
2008(平成20)年3月21日	SGホールディングスグループ不動産会社「SGリアルティ株式会社」事業開始 CRE戦略を推進し、不動産ビジネス展開へ	SGホールディングス株式会社
2008(平成20)年4月14日	安全運行の確保・安全意識の高揚を目的に 第27回「佐川急便幹線輸送全国一斉安全パトロール」を実施	佐川急便株式会社
2008(平成20)年4月21日	日本全国に広がる佐川急便のネットワークを駆使 安全・安心・健康にこだわった通信販売サイト「カットカット」を営業開始!!	佐川アドバンス株式会社
2008(平成20)年4月21日	SGホールディングスグループ、「全社一斉ライトダウン」を実施 ～グループ全事業所看板灯などを消灯～	SGホールディングス株式会社
2008(平成20)年5月8日	環境研修「さがわきゅうびん自然体験学習」(田植え体験)を実施 ～ゴールデンウィークに親子で環境学習～	佐川急便株式会社
2008(平成20)年5月8日	3次元顔認証と動態管理を連動させたセキュリティシステム「3D 顔認証就業管理システム」の本格販売を開始 ～施設セキュリティ機器販売・リース分野に参入～	佐川アドバンス株式会社
2008(平成20)年5月13日	環境大臣が佐川急便の環境保全活動を視察	佐川急便株式会社
2008(平成20)年6月2日	「第16回 佐川急便全国ドライバーコンテスト」を開催 ～交通事故防止と環境保全を目的に～	佐川急便株式会社
2008(平成20)年6月10日	北京オリンピック観戦チケット(日本国内向け)輸送を受託 北京～成田間を空輸	佐川急便株式会社
2008(平成20)年6月23日	千趣会・佐川急便 ヘルメゾンネット「CO ₂ 排出権付き飛脚宅配便」を導入 通販利用で「マイナス6%」に貢献	株式会社千趣会 佐川急便株式会社
2008(平成20)年6月30日	佐川急便陸上競技部所属 谷井孝行選手が北京オリンピック競歩日本代表に決定!	佐川急便株式会社
2008(平成20)年7月2日	中国・四川大地震緊急救援物資寄贈テント、四川省・成都に到着 中国人民対外友好協会から感謝状を授与される	SGホールディングス株式会社
2008(平成20)年7月22日	北京オリンピック日本代表選手団公式支給品輸送を受託	佐川急便株式会社
2008(平成20)年7月24日	JOCジャパンハウス内 国際宅配サービスカウンター業務を受託 オリンピック開催期間中、北京市内に開設	佐川急便株式会社
2008(平成20)年9月8日	「第19回 佐川日中友好車両整備技術研修」を開講～日本の車両整備技術を中国へ～	SGホールディングス株式会社
2008(平成20)年9月11日	佐川美術館「開館10周年記念 平山郁夫展-玄奘三蔵、求法の道」開催 2008年9月12日(金)～11月30日(日)	財団法人佐川美術館
2008(平成20)年10月1日	監督交代のお知らせ SAGAWA SHIGA FC 新監督に中口雅史就任	佐川急便株式会社
2008(平成20)年10月14日	千趣会・佐川急便 ヘルメゾンネットにおける「CO ₂ 排出権付き飛脚宅配便」取り扱い好調 導入1カ月で11,000個を突破	株式会社千趣会 佐川急便株式会社
2008(平成20)年10月27日	「第40回全国トラックドライバーコンテスト」11トン部門・伊藤将大選手が内閣総理大臣賞を受賞! 3部門(4トン、11トン、女性部門)で優勝、計11名が入賞	佐川急便株式会社
2008(平成20)年11月5日	東南アジアと日本の架け橋となる人材の育成に寄与 2008年度佐川奨学生16人を決定	財団法人佐川留學生奨学会
2008(平成20)年11月5日	「環境絵日記コンクール」を実施～従業員と家族とともに、環境保全の取組で地球温暖化を防止する～	SGホールディングス株式会社
2008(平成20)年11月10日	文部科学省がキャリア教育の一環として推奨 「中学生の職場体験」受け入れに協力～ 11月21日より受付開始～	佐川急便株式会社
2008(平成20)年11月17日	2008年度「佐川がん研究助成金」対象研究15件を決定 「佐川特別研究助成賞」「佐川看護特別研究助成賞」を表彰	財団法人佐川がん研究助成振興財団
2008(平成20)年11月21日	(財)日本電信電話ユーザ協会主催「第47回電話応対コンクール全国大会」 佐川急便所属選手が優秀賞を獲得	佐川急便株式会社
2008(平成20)年12月17日	「環境に配慮した青いモーターステーション」最新鋭自動車整備工場 札幌新工場 12月21日オープン ～オープニングキャンペーン(開催期間:～2009年1月20日)実施～	SGモーターズ株式会社
2009(平成21)年1月15日	「女性でも気軽に入れて、安心サービスの「青いモーターステーション」」最新鋭自動車整備工場 高松新工場 1月21日オープン ～オープニングキャンペーン(開催期間:～2009年2月20日)実施～	SGモーターズ株式会社
2009(平成21)年1月19日	地球温暖化防止・CO ₂ 排出量削減に向け 天然ガス充填スタンド16カ所新設 民間企業最多となる天然ガストラックの導入促進	佐川急便株式会社
2009(平成21)年1月26日	ワールド・ロジ株式会社・佐川急便株式会社 連結子会社株式の譲渡および業務提携に関する基本合意書締結のお知らせ	ワールド・ロジ株式会社 佐川急便株式会社
2009(平成21)年1月30日	新サービス「飛脚機密文書リサイクル便」開始 機密文書をオフィスから集荷し溶解処理まで管理	佐川急便株式会社
2009(平成21)年2月3日	スポーツ用品業界特化型共同物流会社を4社合併で設立に合意	ゼット株式会社 / 株式会社日立物流 佐川急便株式会社 / 株式会社イー・ロジック
2009(平成21)年2月9日	第5回SAGAWA ステークホルダー・ダイアログ開催 ～環境新時代に、物流事業者に関わられていること～	佐川急便株式会社
2009(平成21)年2月16日	株式会社ワールドサプライの株式譲渡および業務提携契約締結のお知らせ	佐川急便株式会社 ワールド・ロジ株式会社
2009(平成21)年2月25日	佐川急便ソフトボール部 外国人選手(北京オリンピック銅メダリスト)入団のお知らせ	佐川急便株式会社
2009(平成21)年3月2日	「第8回 佐川急便カスタマーサービスコンテスト」を開催 ～取り戻せ!佐川ファン「やっぱり佐川に任せてみよう」と言って頂ける電話応対を目指して～	佐川急便株式会社
2009(平成21)年3月3日	特定信書の送達事業への参入許可取得～ 新サービス「飛脚特定信書便」を開発・商品化～	佐川急便株式会社
2009(平成21)年3月9日	佐川急便・ニチレイロジグループ本社 「飛脚クール便」開始10年を迎え、強固な提携関係を構築 ～高品質なサービスが好調、2008年度は過去最高の取り扱いへ～	佐川急便株式会社 株式会社ニチレイロジグループ本社

編集後記

SGホールディングスの事業は産業インフラ・社会インフラの充実・発展の一翼を担っていると捉えており、この公共性の高い事業への真摯な取り組みが企業の社会的責任(CSR)と考えています。

より多くの方々にご負担なく読んでいただけるレポートを目指し、引き続き「わかりやすい表現」「親しみやすい表現」に加えカラーユニバーサルデザイン※を取り入れております。

このCSRレポートを通じて、SGホールディングスグループの活動を皆さまに正しくご理解いただければ幸いです。今後も人・社会とのつながりを大切に、事業活動を邁進する当社グループであるために、皆さまの貴重なご意見・ご感想をお寄せいただきたく、宜しくお願い申し上げます。

SGホールディングス株式会社
CSR担当

※色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの方に見やすいように配慮されたデザインです。

この報告書に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

〒601-8104 京都市南区上鳥羽角田町68番地

SGホールディングス株式会社
CSR担当

TEL 075-671-8600

<http://www.sg-hldgs.co.jp/>

タイトル CSRレポート2009

発行日 2009年6月

次回発行予定 2010年6月

印刷 佐川印刷株式会社

本報告書は上記インターネットホームページでもご覧いただくことができます。



●色覚の個人差を問わず見やすいように配慮したデザインをしています。



●森林保全につながるFSC認証紙を使用しています。



●アメリカ大豆協会認定の大豆油インキで印刷しています。



●有機溶媒を含む湿し水を使わない水無し印刷をしています。

